

注3

大学番号：私191

[平成29年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

認可

京都ノートルダム女子大学 現代人間学部

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人ノートルダム女学院
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 大学改革推進室

職名・氏名 ダイカクカイカクスイシンシツ 大学改革推進室 イシカワ ヒトシ 石川 均

電話番号 075-706-1701

（夜間）

F A X 075-706-3707

e-mail kaiso@notredame.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に

()書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

現代人間学部

<福祉生活デザイン学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	17
6. 留意事項等に対する履行状況等	31

<心理学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	35
2. 授業科目の概要	39
3. 施設・設備の整備状況、経費	45
4. 既設大学等の状況	46
5. 教員組織の状況	48
6. 留意事項等に対する履行状況等	59
7. その他全般的事項	61

<こども教育学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	63
2. 授業科目の概要	67
3. 施設・設備の整備状況、経費	74
4. 既設大学等の状況	75
5. 教員組織の状況	77
6. 留意事項等に対する履行状況等	92
7. その他全般的事項	93

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人ノートルダム女学院

(2) 大学名

京都ノートルダム女子大学

(3) 大学の位置

〒606-0847

京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ワダ タマキ) 和田 環 (平成20年11月)		
学長	(セリタ ケンタロウ) 芹田 健太郎 (平成25年4月)	(サナダ マサコ) 眞田 雅子 (平成29年4月)	前任者は平成29年3月31日任期満了、平成29年4月に後任者が就任したため(29)
学部長	(ナカムラ クミ) 中村 久美 (平成29年4月)	(カトウ サチコ) 加藤 佐千子 (平成29年4月)	予定者は副学長に就任、平成29年4月に新たに就任したため(29)
学科主任	未定	(ウシダ ヨシミ) 牛田 好美 (平成29年4月)	平成29年3月に決定したため(29)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
現代人間学部 福祉生活デザイン学科 学士(福祉生活デザイン)	家政関係、社会学・社会福祉関係	4年	70人	— 年次人	280人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 70 (-) [-]		0.52倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	68 (-) [-]			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	66 (-) [-]			
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	62 (-) [-]			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	37 (-) [-]			
入学定員超過率 B/A							0.52			

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで**記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	37 [0] (-)	- [-] (-)	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
4年次	/				[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
計			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	37 [0] (-)	

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成26年度 入学者	人	人	平成26年度	人	人		%
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成27年度 入学者	人	人	平成27年度	人	人		%
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	人	平成28年度	人	人		%
			平成29年度	人	人		
平成29年度 入学者	37人	0人	平成29年度	0人	0人		0.00%
合計	37人	0人					0.00%

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<現代人間学部 福祉生活デザイン学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	人間と文化	日本文学	1前	2							兼 1		
		外国文学	1後	2							兼 1		
		日本近現代史	1前	2							兼 1		
		日本の宗教	1後	2							兼 1		
		東アジア近現代史	1前	2							兼 1		
		ヨーロッパ近現代史	1後	2							兼 1	坂本優一郎の就任辞退の理由により、担当者の変更 (29)	
		歴史の中の女性	1後	2							兼 1		
		身近な心理学	1前	2							兼 1		
	文化人類学	1後	2							兼 1			
	教養科目	生活と社会	暮らしの法律学	1前	2							兼 1	
			憲法と人権	1後	2							兼 1	
			暮らしの経済学	1後	2							兼 1	
			国際関係論入門	1前	2							兼 1	
			社会学概論	1前 1後	2							兼 1	平成29年3月 翁和美の開講期変更の申出のため、開講期を変更 (29)
			ジェンダー論	1後 1前	2							兼 1	平成29年3月 社会学概論の開講期変更による履修上の都合により、開講期を変更 (29)
			ボランティア概論	1前	2							兼 1	沼野尚美の就任辞退の理由により、担当者の変更 (29)
			子育てとワークライフバランス	2前	1							兼 1	
	こどもと子育ての生活環境学	2前	1			4							
	海外研修 (生活と社会)	1・2・3・4休	1			1	1						
	人間と自然	人間と自然	身近な自然科学	1前	2							兼 1	
			暮らしの統計学	1後	2							兼 1	
			地球と宇宙の科学	1前	2							兼 1	
			情報科学入門	1後	2							兼 1	
			環境学概論	1後	2							兼 1	
			身近な医学	1・2前	2							兼 2	
			生命倫理	1後	2							兼 1	
			こどもと自然	1通	2							兼 4	
	基礎科目	外国語科目	英語基礎Ⅰ	1前	1							兼 5	伊藤薫の就任辞退の理由により、担当者の変更 (29)
			英語総合Ⅰ	1前	1							兼 7	松本トモの就任辞退、田中美和子の科目辞退により、担当者の変更及び教育充実のため、担当者の増員 (29)
			英語基礎Ⅱ	1後	1							兼 5	伊藤薫の就任辞退の理由により、担当者の変更 (29)
			英語総合Ⅱ	1後	1							兼 7	松本トモの就任辞退、田中美和子の科目辞退により、担当者の変更及び教育充実のため、担当者の増員 (29)
			日常の英会話	2前・後	1							兼 3	
旅行の英会話			2後	1							兼 2		
留学の英会話			2後	1							兼 2		
おもてなしの英会話			2前	1							兼 2		
やさしいビジネス英会話			2前	1							兼 1		
歌って覚える英語表現			2後	1							兼 1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	基礎科目	英語リスニング初級	2前	1							兼1	
		英語リスニング中級	2後	1							兼1	
		読むための英語	2前	1							兼1	
		実用英語基礎	2後	1							兼1	
		身近な英文法	2前	1							兼1	
		アカデミック英語	3前	1							兼1	
		ドイツ語	1前	2							兼1	
		フランス語	1後	2							兼1	
		スペイン語	1前	2							兼1	
		アラビア語	1後	2							兼1	
		中国語Ⅰ	1前・後	2							兼3	
		中国語Ⅱ	1後	2							兼1	
		中国語Ⅲ	2前	2							兼1	
		コリア語Ⅰ	1前・後	2							兼1	
		コリア語Ⅱ	1後	2							兼1	
	コリア語Ⅲ	2前	2							兼1		
	海外研修(語学)Ⅰ	1・2・3・4休	2							兼1		
	海外研修(語学)Ⅱa	1・2・3休	2							兼1		
	海外研修(語学)Ⅱb	1・2・3・4休	2							兼1		
	日本語講読Ⅰ	1前	1							兼1		
	日本語講読Ⅱ	1後	1							兼1		
	日本語表現Ⅰ	1前	1							兼1		
	日本語表現Ⅱ	1後	1							兼1		
	日本語特講Ⅰ	2前	1							兼1		
	日本語特講Ⅱ	2後	1							兼1		
	リテラシー・スポーツ科目	文章表現法	1前・後		2						兼1	
	情報演習Ⅰ	1前・後	1							兼1		
	情報演習Ⅱ	2前・後	1							兼1		
	情報処理	2前・後	2							兼3		
	体育講義	1後	1							兼1		
	健康スポーツ演習	1前・後	2							兼3		
	体育実技	1前	1							兼1		
	基礎科目	カトリック教育科目	キリスト教入門	1前・後	2						兼1	
キリスト教音楽入門			1前・後	1						兼1		
聖書と文化			2前	2						兼1		
キリスト教と日本文化			2後	2						兼2		
キリスト教思想			2前	2						兼1		
キリスト教美術			2後	2						兼1		
キリスト教音楽			2後	2						兼1		
ライフキャリア形成科目		ノートルダム学	1前	2						兼1		
		女性とライフキャリア	1前・後	2				1		兼1		
		ホスピタリティ入門	1前・後	2						兼1		
		ホスピタリティ京都	2・3前	2						兼2		
		キャリア形成	3前・後	2						兼1		
		キャリア形成ゼミ	2通	2						兼1		
インターンシップ	2・3・4通	2						兼1				
海外インターンシップ	2・3・4休	2						兼1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通科目	現代社会とこども	1前		1								兼2
	現代社会と女性・家族	1前		1					1			兼1
	現代社会と高齢者	1前		1		1						兼1
	現代社会と病者・障がい者	1前		1		1	1					兼2
	病児の発達と支援	1休		2								兼10
	情報科学	3前		2								兼1
基幹科目	福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ	1前	2			7	2	3				
	福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ	1後	2			7	2	3				
	福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ	2前	1			7	2	3				
	福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ	2後	1			7	2	3				
基礎科目	福祉生活デザイン概論	1前	2			7	2	3				
	衣生活概論	1前	2			1						
	食生活概論	1後	2			1						
	住居学概論	1前	2			1						
	現代社会と家庭経営	1後	2					1				
現代社会と福祉Ⅰ	1前	2			1							
専門教育科目	衣生活系科目	衣生活材料学	2前		2				1			
		アパレルデザイン	2後		2		1					
		衣生活情報論	3後		2		1					
		服飾心理学	2後		2		1					
		繊維材料学	2後		2				1			
		染色加工学	3前		2				1			
		アパレル造形学(実習を含む)	2前		2		1					
		アパレルデザイン演習Ⅰ	2後		1		1					
		アパレルデザイン演習Ⅱ	3前		1		1					
		衣生活実験Ⅰ	3前		1				1			
		衣生活実験Ⅱ	3後		1				1			
		生活系科目	食品学	2前		2		1				
	食品加工学(実験を含む)		2後		3		1					
	食品官能評価論		2前		2		1					
	食品官能評価演習(実験を含む)		2前		1		1					
	栄養学		2前		2							兼1
	調理学		2後		2		1					
	調理学実習		3前		2		1					
	発展調理学実習		3後		2		1					
	フードコーディネート論		3後		2		1					
	建築一般構造		2前		2		1					
	住生活学		2前		2		1					
	住環境学		2後		2		1					
	住居史		2後		2		1					
	インテリア装備学		3後		2		1					
	福祉住環境デザイン		2前		2		1					
	展開科目		住居製図Ⅰ	2前		1		1				
		住居製図Ⅱ	2後		1		1					
建築材料学		3前		2		1						
建築法規		2後		2		2						
京都生活論		2後		2							兼1	
家族関係		2前		2				1				

専任補充の審査結果により、担当者を補充(29)
 [担当 室田保夫(教授)
 平成28年11月 教員審査済
 判定可]

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目 展開科目	生活系科目	家族社会学		2					1				
		消費者教育	3前	2								兼1	
		家庭電気・機械及び情報処理	1後	2								兼1	
		家庭科教育法Ⅰ（生活の自立と衣食住）	2前	2			1						
		家庭科教育法Ⅱ（家族・家庭生活と福祉）	2後	2			1						
		家庭科教育法Ⅲ（指導法と教材作成）	3前	2			1						
		家庭科教育法Ⅳ（模擬授業）	3後	2			1						
		保育学（実習および家庭看護を含む）	3後	2								兼1	
	医学一般	2前	2								兼1		
	福祉系科目	現代社会と福祉Ⅱ	1後		2		1						専任補充の審査結果により、担当者を補充（29） [担当 室田保夫（教授） 平成28年11月 教員審査済 判定 可] 平成29年10月 提出予定（29） 平成30年3月 提出予定（29）
		社会保障論Ⅰ	2前		2								
		社会保障論Ⅱ	2後		2								
		老人福祉論	2前		2		1						
		介護概論	2後		2		1						
		障害者福祉論	2後		2					1			
		児童福祉論	2前		2								兼1
		地域福祉論Ⅰ	3前		2				1				
		地域福祉論Ⅱ	3後		2				1				
		介護技術	2前		2		1						専任補充の審査結果により、担当者を補充（29） [担当 三好明夫（教授） 平成29年1月 教員審査済 判定 可]
		精神保健学Ⅰ	2前		2				1				
		精神保健学Ⅱ	2後		2				1				
	医療ソーシャルワーク論	2後		2		1							
	レクリエーション論	2前		2		1						専任補充の審査結果により、担当者を補充（29） [担当 三好明夫（教授） 平成29年1月 教員審査済 判定 可]	
	福祉コミュニティの実践	3通		2					1				
	生活系科目	食品安全性学	2後		2								兼1
		食品流通論	2後		2								兼1
		フードスペシャリスト論	2前		2								兼1
		住計画演習Ⅰ	3前		2								兼1
		住計画演習Ⅱ	3後		2								兼1
		建築構造力学	3前		2								兼1
建築施工		3後		2								兼1	
デザイン論Ⅰ		3前		2								兼1	
デザイン論Ⅱ		3後		2								兼1	
色彩学		3前		2								兼1	
ビジネスの基礎Ⅰ ビジネスの基礎	2前		2								兼1 教育課程の充実の理由により、科目名を変更（29）		
ビジネスの基礎Ⅱ	2後		2								兼1 教育課程の充実の理由により、科目を追加（29）		
マーケティング論	3前		2								兼1		
ソーシャルマーケティング論	3後		2								兼1 教育課程の充実の理由により、科目を追加（29）		
女性起業論	4前		2								兼1		

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	展開科目 福祉系科目	保健医療サービス	2後	2		1						
		公的扶助論	3前	2								平成30年3月 提出予定 (29)
		福祉行財政と福祉計画	3後	2								平成31年3月 提出予定 (29)
		社会福祉運営論	3後	2								平成29年10月 提出予定 (29)
		就労支援	3前	1								平成30年10月 提出予定 (29)
		権利擁護と成年後見制度	3前	2								兼 1
		更生保護制度	3前	1								兼 1
		社会福祉調査法	2前	2								兼 1
		精神医学 I	2前	2								兼 1
		精神医学 II	2後	2								兼 1
		精神科リハビリテーション学 I	3前	2								兼 1
		精神科リハビリテーション学 II	3後	2								兼 1
		精神保健福祉論 I	2前	2				1				
		精神保健福祉論 II	2後	2				1				
		精神保健福祉論 III	4前	2				1				
		精神保健福祉相談援助の基盤 (基礎)	1後	2				1				
		精神保健福祉相談援助の基盤 (専門)	2前	2				1				
		精神保健福祉援助技術各論 I	3後	2								兼 1
		精神保健福祉援助技術各論 II	4前	2								兼 1
		リハビリテーション論	2後	2								兼 1
		ターミナルケア論	3前	2			1					
		ソーシャルワーク論 I	1後	2			1					
		ソーシャルワーク論 II	2前	2			1					
		ソーシャルワーク論 III	2後	2			1					
		ソーシャルワーク論 IV	3前	2			1					
		ソーシャルワーク論 V	3後	2			1					
		ソーシャルワーク論 VI	4前	2			1					
		ソーシャルワーク演習 I	2通	2			1					
		ソーシャルワーク演習 II	3通	2					1			
		ソーシャルワーク演習 III	4前	1				1				
		医療ソーシャルワーク演習 I	3前	1			1					
		医療ソーシャルワーク演習 II	3後	1			1					
		ソーシャルワーク実習指導 I	2後	2			1	1				
		ソーシャルワーク実習指導 II	3前	1			1		1			
		ソーシャルワーク実習指導 III	3通	2			3	1	1			
		ソーシャルワーク現場実習	3休	6			3	1	1			
		医療ソーシャルワーク現場実習	3通	6			3	1	1			教育課程の充実の理由により、 科目を追加 (29) 担当 小池 桂 (教授) 三好 明 (教授) 小西加保留 (教授) 酒井久美子 (准教授) 矢島 雅子 (講師) 平成29年3月 変更書提出
		精神保健福祉援助演習 (基礎)	3前	1				1				兼 1
		精神保健福祉援助演習 (専門) I	3後	1				1				兼 1
		精神保健福祉援助演習 (専門) II	4前	1				1				兼 1
		精神保健福祉援助実習指導	3後	3				1				兼 1
精神保健福祉援助実習 I	3休	2				1				兼 1		
精神保健福祉援助実習 II	3休	2				1				兼 1		
精神保健福祉援助実習 III	3休	3				1				兼 1		
社会福祉特講 I	4通	2			1							
社会福祉特講 II	4通	2				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
習・卒業 研究・卒業 演習	福祉生活デザイン特論	3通	4			7	2	3			
	卒業研究	4通	8			7	2	3			
教職に関する科目	教師論	2前			2						兼1
	教育原論 教育学	1後			2						兼1
	発達と学習の教育心理	2前			2						兼1
	教育社会学	2後			2						兼1
	中等教育課程論	2・3前			2						兼1
	道徳の指導法（中等）	2・3前			2						兼1
	特別活動の指導法（中等）	2・3前			2						兼1
	教育の方法及び技術	3後			2						兼1
	生徒指導・進路指導の理論及び方法	2・3休			2						兼1
	教育相談の理論及び方法	2・3後			2						兼1
	中等教育実習事前事後指導	4通			1	1					兼1
	中等教育実習Ⅰ	4通			2	1					兼1
	中等教育実習Ⅱ	4通			2	1					兼1
	教職実践演習（中・高）	4後			2	1					兼1
介護等体験	2・3通			1			1			兼1	

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時（平成28年度に認可（届出）された大学等は設置認可（届出）時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
20	196	15	231	20	199	15	234	
				[0]	[3]	[0]	[3]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	「該当なし」					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	「該当なし」					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{231} = \boxed{0.00} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	校舎敷地と運動場用地 1(300m,徒歩5分) 校舎敷地と運動場用地 2(3.5km,車で15分)			
	校舎敷地	17,206 m ²	0 m ²	0 m ²	17,206 m ²				
	運動場用地	19,625 m ²	0 m ²	0 m ²	19,625 m ²				
	小 計	25,966 m ²	0 m ²	0 m ²	25,966 m ²				
	そ の 他	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²				
	合 計	36,831 m ²	0 m ²	0 m ²	36,831 m ²				
(2) 校 舎	専 用	30,169 m ²	12,670 m ²	0 m ²	30,169 m ²	大学全体			
	(30,169 m ²)	(12,670 m ²)	(0 m ²)	(30,169 m ²)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	41 室	6 室	14 室	4 室 (補助職員 2 人)	3 室 (補助職員 2 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		平成29年4月 専任教員1名を新規 採用のため(29)			
	現代人間学部 福祉生活デザイン学科			16 15	室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用分を含む図書40,000冊 [35,000冊]	
	現代人間学部	128,000 [33,330] (118,000 [32,100])	310 [60] (310 [60])	1,100 [540] (1,100 [540])	400 (340)	400 (400)	0 (0)		
	計	128,000 [33,330] (118,000 [32,100])	310 [60] (310 [60])	1,100 [540] (1,100 [540])	400 (340)	400 (400)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	3,625 m ²		198		278,111				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	2,004 m ²		トラック 1面 テニスコート 4面 トレーニングルーム 1室						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	「図書購入費」「設備購入費」を最新額に変更(29) 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	300千円	300千円	図書購入費	13,328千円 10,000千円	11,677千円 9,000千円	11,677千円 9,000千円	
		共 同 研 究 費 等	3,200千円	3,200千円	設備購入費	19,000千円 15,223千円	5,000千円 1,500千円	5,000千円 1,500千円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
	1,410千円	1,130千円	1,130千円	1,163千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経営補助金、雑収入、その他							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	京都ノートルダム女子大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
人間文化学部									
英語英文学科	4	80	3年次5	420	学士(文学)	0.78	昭和36年度	京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地	平成29年度入学定員変更110→80
人間文化学科	4	50	-	230	学士(人間文化)	0.65	平成12年度	同上	平成29年度入学定員変更60→50
生活福祉文化学科	4	-	-	-	学士(生活福祉文化)	-	平成19年度	同上	平成29年度学生募集停止
心理学科	4	-	-	-	学士(心理)	-	平成17年度	同上	平成29年度学生募集停止
現代心理専攻	4	-	-	-				同上	
学校心理専攻	4	-	-	-				同上	
臨床心理専攻	4	-	-	-				同上	
現代人間学部									
福祉生活デザイン学科	4	70	-	280	学士(福祉生活デザイン)	0.52	平成29年度	同上	
心理学科	4	100	-	400	学士(心理学)	0.58	平成29年度	同上	
こども教育学科	4	70	-	280	学士(こども教育)	0.65	平成29年度	同上	
大学の名称	京都ノートルダム女子大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
(修士課程)									
人間文化研究科									
応用英語専攻	2	8	-	16	修士(応用英語)	0.15	平成14年度	京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地	
生活福祉文化専攻	2	6	-	12	修士(生活福祉文化)	0.12	平成16年度	同上	
人間文化専攻	2	3	-	6	修士(人間文化)	0.16	平成17年度	同上	
(博士前期課程)									
心理学研究科									
発達・学校心理学専攻	2	8	-	16	修士(心理)	0.15	平成17年度	同上	

臨床心理学専攻	2	7	-	14	修士 (心理)	0.88	平成17年度	同上
(博士後期課程)								
心理学研究科								
心理学専攻	3	4	-	12	博士 (心理)	0	平成17年度	同上

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<現代人間学部 福祉生活デザイン学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	牛田 好美 (58)	平成29年4月	こどもと子育ての生活環境学※ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ 福祉生活デザイン概論 衣生活概論 アパレルデザイン 衣生活情報論 服飾心理学 アパレル造形学(実習を含む) アパレルデザイン演習Ⅰ アパレルデザイン演習Ⅱ 福祉生活デザイン特論 卒業研究						
専	教授	加藤 佐千子 (59)	平成29年4月	現代社会と高齢者※ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ 福祉生活デザイン概論 食生活概論 食品加工学(実験を含む) 食品官能評価論 食品官能評価演習(実験を含む) 家庭科教育法Ⅰ(生活の自立と衣食住) 家庭科教育法Ⅱ(家族・家庭生活と福祉) 家庭科教育法Ⅲ(指導法と教材作成) 家庭科教育法Ⅳ(模擬授業) 福祉生活デザイン特論 卒業研究 中等教育実習事前事後指導※ 中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ 教職実践演習(中・高)						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	小池 桂 (49)	平成29年4月	福祉生活デザイン 基礎演習Ⅰ 福祉生活デザイン 基礎演習Ⅱ 福祉生活デザイン 基礎演習Ⅲ 福祉生活デザイン 基礎演習Ⅳ 福祉生活デザイン 概論 ソーシャルワーク 実習指導Ⅰ ソーシャルワーク 実習指導Ⅲ ソーシャルワーク 現場実習 福祉生活デザイン 特論 卒業研究						
					専	教授	小池 桂 (49)	平成29年4月	医療ソーシャル ワーク現場実習	教育課程の充実を図るため、 科目を追加 平成29年3月 変更書提出 (29)
専	教授	竹原 広実 (53)	平成29年4月	こどもと子育ての 生活環境学※ 福祉生活デザイン 基礎演習Ⅰ 福祉生活デザイン 基礎演習Ⅱ 福祉生活デザイン 基礎演習Ⅲ 福祉生活デザイン 基礎演習Ⅳ 福祉生活デザイン 概論 住環境学 インテリア装備学 福祉住環境デザイン 住居製図Ⅰ 建築材料学 建築法規※ 福祉生活デザイン 特論 卒業研究						
専	教授	中村 久美 (58)	平成29年4月	こどもと子育ての 生活環境学※ 福祉生活デザイン 基礎演習Ⅰ 福祉生活デザイン 基礎演習Ⅱ 福祉生活デザイン 基礎演習Ⅲ 福祉生活デザイン 基礎演習Ⅳ 福祉生活デザイン 概論 住居学概論 建築一般構造 住生活学 住居史 住居製図Ⅱ 建築法規※ 福祉生活デザイン 特論 卒業研究						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	藤原 智子 (55)	平成29年4月	こどもと子育ての生活環境学※ 海外研修(生活と社会) 福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ 福祉生活デザイン概論 食品学 調理学 調理学実習 発展調理学実習 フードコーディネータ論 福祉生活デザイン特論 卒業研究						
専	教授	三好 明夫 (58)	平成29年4月	現代社会と病者・障がい者※ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ 福祉生活デザイン概論 老人福祉論 介護概論 ソーシャルワーク論Ⅴ ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク現場実習 社会福祉特講Ⅰ 福祉生活デザイン特論 卒業研究						
				介護技術 レクリエーション論	専	教授	三好 明夫 (59)	平成29年4月	介護技術 レクリエーション論	平成29年1月 AC教員審査済 (29)
									医療ソーシャルワーク現場実習	教育課程の充実を図るため、科目を追加 平成29年3月 変更書提出 (29)
専	教授	桐野 由美子 (65)	平成29年10月	ソーシャルワーク論Ⅰ ソーシャルワーク論Ⅱ ソーシャルワーク論Ⅲ ソーシャルワーク論Ⅳ ソーシャルワーク論Ⅵ						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	小西 加保留 (67)	平成30年10月	医療ソーシャルワーク論 保健医療サービス ターミナルケア論 医療ソーシャルワーク演習Ⅰ 医療ソーシャルワーク演習Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク現場実習						
					専	教授	小西 加保留 (67)	平成30年10月	医療ソーシャルワーク現場実習	教育課程の充実を図るため、科目を追加 平成29年3月変更書提出 (29)
				現代社会と福祉Ⅰ 現代社会と福祉Ⅱ	専	教授	室田 保夫 (68)	平成29年4月	現代社会と福祉Ⅰ 現代社会と福祉Ⅱ	平成28年11月AC教員審査済 (29)
専	准教授	酒井 久美子 (54)	平成29年4月	海外研修(生活と社会) 現代社会と病者・障がい者※ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ 福祉生活デザイン概論 地域福祉論Ⅰ 地域福祉論Ⅱ 福祉コミュニティの実践 ソーシャルワーク演習Ⅲ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク現場実習 福祉生活デザイン特論 卒業研究						
					専	准教授	酒井 久美子 (54)	平成29年4月	医療ソーシャルワーク現場実習	教育課程の充実を図るため、科目を追加 平成29年3月変更書提出 (29)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	准教授	佐藤 純 (53)	平成29年4月	福祉生活デザイン 基礎演習Ⅰ 福祉生活デザイン 基礎演習Ⅱ 福祉生活デザイン 基礎演習Ⅲ 福祉生活デザイン 基礎演習Ⅳ 福祉生活デザイン 概論 精神保健学Ⅰ 精神保健学Ⅱ 精神保健福祉論Ⅰ 精神保健福祉論Ⅱ 精神保健福祉論Ⅲ 精神保健福祉相談 援助の基盤(基礎) 精神保健福祉相談 援助の基盤(専門) 精神保健福祉援助 演習(基礎) 精神保健福祉援助 演習(専門)Ⅰ 精神保健福祉援助 演習(専門)Ⅱ 精神保健福祉援助 実習指導 精神保健福祉援助 実習Ⅰ 精神保健福祉援助 実習Ⅱ 精神保健福祉援助 実習Ⅲ 社会福祉特講Ⅱ 福祉生活デザイン 特論 卒業研究						
専	講師	矢島 雅子 (38)	平成29年4月	福祉生活デザイン 基礎演習Ⅰ 福祉生活デザイン 基礎演習Ⅱ 福祉生活デザイン 基礎演習Ⅲ 福祉生活デザイン 基礎演習Ⅳ 福祉生活デザイン 概論 障害者福祉論 ソーシャルワーク 演習Ⅱ ソーシャルワーク 実習指導Ⅱ ソーシャルワーク 実習指導Ⅲ ソーシャルワーク 現場実習 福祉生活デザイン 特論 卒業研究 介護等体験						
					専	講師	矢島 雅子 (39)	平成29年4月	医療ソーシャル ワーク現場実習	教育課程の充実を図るため、 科目を追加 平成29年3月 変更書提出 (29)

設置時の計画				変更状況				備考	
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月
専	講師	青木(高柴)加奈子(38)	平成29年4月	女性とライフキャリア 現代社会と女性・家族※ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ 福祉生活デザイン概論 現代社会と家庭経営 家族関係 家族社会学 福祉生活デザイン特論 卒業研究					
専	講師	安川 涼子(40)	平成29年4月	福祉生活デザイン基礎演習Ⅰ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅲ 福祉生活デザイン基礎演習Ⅳ 福祉生活デザイン概論 衣生活材料学 繊維材料学 染色加工学 衣生活実験Ⅰ 衣生活実験Ⅱ 福祉生活デザイン特論 卒業研究					
兼任	教授	伊藤 一美(49)	平成29年4月	現代社会と高齢者※ 病児の発達と支援※					
兼任	教授	岩崎(馬詰)れい(49)	平成29年4月	子育てとワークライフバランス 病児の発達と支援※					
兼任	教授	河瀬 雅紀(58)	平成29年4月	身近な医学※ 現代社会と病者・障がい者※ 病児の発達と支援※ 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ 精神保健福祉援助演習(基礎) 精神保健福祉援助演習(専門)Ⅰ 精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ					
兼任	教授	工藤 哲夫(59)	平成29年4月	現代社会とこども※					
兼任	教授	朱(佐藤)鳳(54)	平成29年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 海外研修(語学)Ⅰ					
兼任	教授	須川 いずみ(62)	平成29年4月	海外研修(語学)Ⅱa 海外研修(語学)Ⅱb					

設置時の計画					変更状況					備考
専任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	鷲見 朗子 (54)	平成29年10月	外国文学 アラビア語						
兼任	教授	高井 直美 (58)	平成29年4月	身近な心理学 こどもと自然 現代社会とこども※						
兼任	教授	萩原 暢子 (63)	平成29年4月	身近な医学※ 病児の発達と支援※ 保育学(実習および 家庭看護含む) 医学一般						
兼任	教授	廣瀬 直哉 (50)	平成29年10月	暮らしの統計学						
兼任	教授	向山 泰代 (54)	平成29年4月	現代社会と 女性・家族※						
兼任	教授	吉田 智子 (55)	平成29年4月	情報科学入門 情報演習Ⅰ 情報演習Ⅱ 情報処理						
兼任	准教授	石井 浩子 (47)	平成29年4月	病児の発達と支援※						
兼任	准教授	植田 恵理子 (56)	平成29年4月	病児の発達と支援※						
兼任	准教授	江川 正一 (61)	平成29年4月	現代社会と 病者・障がい者※ 病児の発達と支援※						
兼任	准教授	太田 容次 (53)	平成29年4月	病児の発達と支援※ 介護等体験						
兼任	准教授	小川 博士 (35)	平成29年4月	身近な自然科学 こどもと自然						
兼任	准教授	久野 将健 (51)	平成29年4月	キリスト教音楽入門 キリスト教音楽						
兼任	准教授	神月 紀輔 (52)	平成31年4月	情報科学						
兼任	准教授	薦田 未央 (46)	平成29年4月	こどもと自然 病児の発達と支援※ 精神保健福祉援助 実習指導 精神保健福祉援助 実習Ⅰ 精神保健福祉援助 実習Ⅱ 精神保健福祉援助 実習Ⅲ						
兼任	准教授	東郷 多津 (53)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ 英語リスニング初級 英語リスニング中級 インターンシップ 教育の方法及び技術 教職実践演習 (中・高)						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	准教授	長沼 光彦 (54)	平成29年4月	日本文学 ホスピタリティ京都						
兼任	准教授	島山 寛 (45)	平成29年4月	病児の発達と支援※ 発達と学習の 教育心理						
兼任	准教授	平野 美保 (49)	平成30年4月	キャリア形成 キャリア形成ゼミ						
兼任	准教授	藤本(下村)陽三 (63)	平成29年4月	こどもと自然						
兼任	准教授	吉田(小野澤)朋子 (45)	平成30年10月	キリスト教美術						
兼任	講師	辻 敦子 (42)	平成29年10月	教師論	兼任	講師	辻 敦子 (42)	平成29年10月	教育原論	課程認定申請上の理由により、科目名の変更(29)
				教育学 道徳の指導法 (中等) 中等教育実習 事前事後指導※ 中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ 教職実践演習 (中・高)						
兼任	講師	中里 郁子 (52)	平成29年4月	キリスト教入門 聖書と文化						
兼任	講師	York Weatherford (50)	平成30年4月	読むための英語 アカデミック英語						
兼任	助教	住本 純 (34)	平成29年4月	体育講義 健康スポーツ演習						
兼任	講師	青木 三陽 (41)	平成29年4月	ドイツ語						
兼任	講師	池島 徳大 (65)	平成30年4月	生徒指導・進路指導の 理論及び方法						
兼任	講師	石川 真美 (57)	平成29年4月	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ						
兼任	講師	伊藤 薫 (29)	平成29年4月	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ	兼任	講師	黒田 一平 (29)	平成29年4月	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ	平成29年1月 伊藤薫の就任 辞退のため、担当者の変更 (29)
兼任	講師	伊藤 泰子 (51)	平成30年4月	情報処理						
兼任	講師	稲垣 顕子 (63)	平成29年4月	日本語講読Ⅰ 日本語講読Ⅱ						
兼任	講師	今井 里佳 (35)	平成30年4月	フードスペシャリス ト論						
兼任	講師	伊村 大樹 (42)	平成29年4月	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ						
兼任	講師	岩田 真理子 (62)	平成29年4月	ホスピタリティ入門						
兼任	講師	翁 和美 (47)	平成29年10月	社会学概論	兼任	講師	翁 和美 (47)	平成29年4月	社会学概論	平成29年3月 開講期の変更の ため、就任予定年月を変更 (29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	王 嵐 (61)	平成29年4月	中国語Ⅰ						
兼任	講師	大畑 好司 (66)	平成31年4月	更生保護制度						
兼任	講師	越智 淳子 (48)	平成30年10月	リハビリテーション論						
兼任	講師	小都 晶子 (41)	平成29年4月	東アジア近現代史						
兼任	講師	郭 南燕 (54)	平成30年10月	キリスト教と日本文化※						
兼任	講師	梶山(十河)玉香 (50)	平成29年4月	暮らしの法律学						
兼任	講師	片山 裕 (67)	平成29年4月	国際関係論入門 ノートルダム学 海外インターンシップ						
兼任	講師	金 美仙 (52)	平成29年4月	コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語Ⅲ						
兼任	講師	岸 研一 (45)	平成31年4月	住計画演習Ⅰ 住計画演習Ⅱ 建築施工						
兼任	講師	工藤 春代 (41)	平成30年10月	消費者教育 食品流通論						
兼任	講師	久保 圭 (33)	平成29年4月	文章表現法						
兼任	講師	黒田 一平 (29)	平成29年10月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ						
兼任	講師	小島 秀信 (39)	平成29年10月	暮らしの経済学						
兼任	講師	小林 ゆき子 (45)	平成30年4月	栄養学						
兼任	講師	柴 礼敏 (62)	平成29年4月	中国語Ⅰ	兼任	講師	陶 盈 (37)	平成29年4月	中国語Ⅰ	平成29年2月 柴礼敏の授業担当数減の申出のため、担当者の追加 (29)
兼任	講師	坂本 優一郎 (46)	平成29年10月	ヨーロッパ近現代史	兼任	講師	森本 慶太 (36)	平成29年10月	ヨーロッパ近現代史	平成29年1月 坂本優一郎の就任辞退のため、担当者の変更 (29)
兼任	講師	笹岡 隆甫 (42)	平成30年4月	ホスピタリティ京都						
					兼任	学長	真田 雅子 (74)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	教育の充実を図るため、担当者の増員 (29)
兼任	講師	杉山 生 (55)	平成30年10月	食品安全性学						
兼任	講師	須藤 英幸 (50)	平成30年4月	キリスト教思想						
兼任	講師	高岸 雅子 (58)	平成29年4月	日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	講師	竹内 正明 (43)	平成31年4月	デザイン論Ⅰ デザイン論Ⅱ						
兼任	講師	橋 健一 (52)	平成29年10月	文化人類学						
兼任	講師	田中 貴子 (61)	平成30年4月	日本語特講Ⅰ						
兼任	講師	田中 敏彦 (64)	平成29年10月	フランス語						
兼任	講師	田中 美和子 (55)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ 実用英語基礎 身近な英文法	兼任	講師	薦田 和美 (58)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	平成29年3月 田中美和子の 科目就任辞退のため、担当 者の変更(29)
兼任	講師	玉井 雅人 (47)	平成29年4月	地球と宇宙の科学						
兼任	講師	大喜 直彦 (56)	平成29年4月	日本近現代史 日本の宗教						
兼任	講師	知名 純子 (43)	平成31年10月	精神保健福祉援助 技術各論Ⅰ 精神保健福祉援助 技術各論Ⅱ						
兼任	講師	寺西 みどり (63)	平成29年4月	歴史の中の女性 英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ						
兼任	講師	鳥居本 幸代 (64)	平成30年10月	京都生活論						
兼任	講師	豊田 陽介 (39)	平成29年10月	環境学概論						
兼任	講師	土井 裕明 (53)	平成31年4月	権利擁護と成年後 見制度						
兼任	講師	Doyle 恵美 (46)	平成31年4月	建築構造力学						
兼任	講師	中村 央希 (33)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	兼任	講師	岡崎 央希 (33)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	平成29年3月 氏名の変更(29)
兼任	講師	中村 亮太 (35)	平成30年4月	情報処理						
兼任	講師	中森 伸行 (67)	平成29年10月	家庭電気・機械 および情報処理						
兼任	講師	新村 佳史 (56)	平成30年4月	ビジネスの基礎 マーケティング論	兼任	講師	新村 佳史 (56)	平成30年4月	ビジネスの基礎Ⅰ ビジネスの基礎Ⅱ ソーシャルマーケ ティング論	平成29年3月 教育課程の充実 のため、科目名の変更(29) 平成30年4月から教育課程の 充実を図るため、科目の追加 (29) 平成30年4月から教育課程の 充実を図るため、科目を追加 (29)
兼任	講師	沼野 尚美 (60)	平成29年4月	ボランティア概論	兼任	講師	志藤 修史 (53)	平成29年4月	ボランティア概論	平成29年3月 沼野尚美の就任 辞退のため、担当者の変更 (29)
兼任	講師	野村 照夫 (58)	平成29年4月	健康スポーツ演習						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	野村 晴美 (58)	平成29年4月	健康スポーツ演習 体育実技						
兼任	講師	橋本 史人 (45)	平成31年4月	精神科リハビリ テーション学Ⅰ 精神科リハビリ テーション学Ⅱ						
兼任	講師	原 清治 (56)	平成30年10月	教育社会学						
兼任	講師	日比 伊奈穂 (44)	平成30年10月	日本語特講Ⅱ						
兼任	講師	平尾 良治 (59)	平成30年4月	社会福祉調査法						
兼任	講師	福嶋 祐貴 (26)	平成30年4月	中等教育課程論						
兼任	講師	藤田 朋子 (55)	平成29年4月	ジェンダー論	兼任	講師	藤田 朋子 (55)	平成29年10月	ジェンダー論	平成29年3月 開講期の変更のため、就任予定年月を変更(29)
兼任	講師	藤本 幸治 (47)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ						
兼任	講師	松井 吉康 (55)	平成29年10月	生命倫理						
兼任	講師	松田 修 (63)	平成30年4月	特別活動の 指導法(中等)						
兼任	講師	松本 ドロタ (44)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	兼任	講師	森 ユキエ (67)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	平成29年2月 松本ドの就任辞退のため、担当の変更(29)
兼任	講師	村井 琢哉 (36)	平成30年4月	児童福祉論						
兼任	講師	村上 裕美 (56)	平成29年4月	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ						
兼任	講師	室 千草 (43)	平成31年4月	色彩学						
兼任	講師	山本 健治 (60)	平成30年10月	教育相談の 理論及び方法						
兼任	講師	横山(須賀)真紀 (42)	平成32年4月	憲法と人権						
兼任	講師	吉村(竹内)恵 (61)	平成29年10月	女性起業論						
兼任	講師	Eric Hail (46)	平成30年4月	日常の英会話 旅行の英会話 やさしいビジネス 英会話						
兼任	講師	Jacoba Akazawa (61)	平成30年4月	日常の英会話 旅行の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話						
兼任	講師	Jodie Campbell (47)	平成30年4月	日常の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話 歌って覚える 英語表現						
兼任	講師	John Breen (61)	平成30年10月	キリスト教と 日本文化※						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	VALVERDE IBÁÑEZ María del Pilar (36)	平成29年4月	スペイン語	兼任	講師	安藤 幸治 (42)	平成29年4月	スペイン語	平成29年3月 VALVERDEの就任辞退のため、担当者の変更(29)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度の書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
11 名	6 名

- (注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十条別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在(報告書提出時)の状況					現在(報告書提出時)の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
9	2	3	0	14	8	2	3	0	13	10	2	3	0	15
(8)	(2)	(3)	(0)	(13)						[1]	0	[0]	[0]	[1]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告書提出時(上記(A))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65又は70 歳	0 名	0 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		「該当なし」				
合計（A）				後任補充状況の集計（B）		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
「該当なし」						

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		「該当なし」				
合計（C）				後任補充状況の集計（D）		
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
「該当なし」						

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（A）+（C）		後任補充状況の集計（B）+（D）		
辞任等した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）	①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
「該当なし」				

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成28年8月)	社会福祉士と精神保健福祉士の両資格の取得は、修得単位数(157単位)や実習等から相当な過密スケジュールとなる。両資格を取得できる者の上限を設け、かつ、該当者については、コース選択時のみでなく、定期的に成績や受講状況を把握し、適切な指導を行うこと。	留意事項	両資格取得には成績優秀者に限定し、2年進級時のコース所属への説明会で取得科目の多さを説明の上、面接において両資格取得の適正を図った上で可否を判断する。また、履修指導上においても定期的に成績や受講状況を把握し、実習担任のみならず所属教員全員による適切な指導体制をとることとした。(29)
	医療ソーシャルワーカーのための実習施設を追加しているが、医療ソーシャルワーカーは特殊な技能や実技を必要とするものであるため、ソーシャルワークの実習の科目の中での1施設として加えるのではなく、医療ソーシャルワークに特化した実習科目を設けて実習を実施すること。(その際、短期間に集中して実施するのではなく、1年間をかけて長期的に病院での実習を行うことが望ましい。)	留意事項	医療ソーシャルワークに特化した病院で行う通年の実習科目として、「医療ソーシャルワーク現場実習」(3年通年)を開設することとし、担当を予定する専任教員について、平成29年3月変更書提出済。(29)
	福祉生活総合コースは、コミュニティビジネスや起業をテーマにしているため、ソーシャルマーケティングやソーシャルビジネスに関する知識の修得が重要である。ビジネス系3科目を設定しているが、コミュニティビジネスの中核となるソーシャルマーケティングやソーシャルビジネスを扱う科目を開設するよう改善すること。	留意事項	ソーシャルビジネスの概念やコミュニティビジネスについて解説する「ビジネスの基礎Ⅱ」(2年後期)及び「ソーシャルマーケティング論」(3年後期)の授業科目を開設する。 なお、当初科目の「ビジネスの基礎」を「ビジネスの基礎Ⅰ」(2年前期)に変更した。(29)
	教員の補充を必要とされた11授業科目については、科目開講時までには確実に専任教員を配置して教員を充足すること。	留意事項	教員補充が必要とされた科目のうち、4科目については、平成28年11月教員審査済。(29) 現時点で未補充である以下の7科目については、科目開講時までには確実に専任教員を配置・充足する。(29) 社会保障論Ⅰ (平成29年10月AC教員審査予定) 社会保障論Ⅱ (平成30年3月AC教員審査予定) 公的扶助論 (平成30年3月AC教員審査予定) 福祉行政と福祉計画 (平成31年3月AC教員審査予定) 社会福祉運営論 (平成29年10月AC教員審査予定) 就労支援 (平成30年10月AC教員審査予定) 就労支援 (平成30年10月AC教員審査予定)

設置計画履行状況 調査時 (△△年2月)	「該当なし」			
設置計画履行状況 調査時 (□□年2月)	「該当なし」			
設置計画履行状況 調査時 (●●年2月)	「該当なし」			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<現代人間学部 福祉生活デザイン学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
「該当なし」	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 京都ノートルダム女子大学FD委員会を設置（別添1参照）</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） ・毎月1回（8月及び12月を除く）年間10回開催 ・委員は各学科から選出された教員と担当課長で構成し、全員出席を原則としている。</p> <p>c 委員会の審議事項等 ・FD活動の企画立案 ・授業評価等、全学的なFD活動の実施計画の策定及び評価 ・全学的なFDに関する研修及び研究 ・FD報告書の作成 ・FDに関する情報の収集と提供 ・FD関係団体との連携に関すること ・その他、FD活動に必要な事項</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 ・教員研修会については、FD研修会（前期2～3回実施）、全学教員FD研修会（後期1回実施）を実施 ・大学コンソーシアム京都主催の「FDフォーラム」に委員として参画及び教職員の参加 ・オープンクラスの実施</p> <p>b 実施方法 ・FD委員会で企画し、年間を通じて全教職員を対象に全学的に実施している。 ・研修会の実施方法 参加対象は専任教職員とし、うち教員には参加を義務づけている。 実施形式は、学内外の講師による講演・講義形式、学内教員によるディスカッション形式での実施である。 ・オープンクラスの実施方法 参加対象は、専任教職員、非常勤教職員、学生 公開可能な授業を一定期間オープンとする「オープンクラス・ウィーク」及び抽出した特定の授業を公開している。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む） ・FD研修会等 複数の機会を提供し教員参加の機会を確保。平成28年度は延べ参加者数90名（うち教員75名（在籍者67名））であった。 ・全学教員FD研修会 平成28年度は学外講師を迎えて実施した。出席者数は43名で専任教員の約3分の2であった。 ・オープンクラス 平成28年度は前期2週間、後期3週間の「オープンクラス・ウィーク」を実施した。授業参観者の「参観者コメントシート」提出数は、前期48、後期32であった。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 ・研修会によって、大学教育の動向や考え方、アクティブラーニング等の授業手法、情報機器や授業支援システムの活用法等が教員間で共有され、授業改善に活かされている。 ・オープンクラスでは、教員間で授業について検討することにより、授業方法の知識や技能を共有し授業改善に反映されるよう問題の共有を図っている。</p>

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・全学的にはほぼ全科目実施している。
- ・実施時期は、毎年、前期 7月、後期 12～1月

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・実施結果は、教職員及び学生が閲覧できるようにしている。また、WEB上においても公表している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

現代人間学部福祉生活デザイン学科の設置の趣旨・目的は、今日、少子高齢化とともに人口減少時代を迎えて、これまでとは違う新たな社会の創造が求められている。現代社会の大きな転換に際しては、社会を構成する人間やその生活の営みのあり方から問うていかなければならない。今こそ、生活の質(QOL)の議論をするとともに、人間の持続可能な望ましい生活様式の確立が求められている。平均寿命が男女とも80歳を超え高齢者が総人口の1/4を占める長寿社会においては、高齢者の能力が活用される一方、自立度が低下した高齢者に対しては適切な支援が用意されていないと見られる。高齢者だけでなく、障がいを持つ人や生活困難を抱える人をも含めて、支える仕組みを前提とした上で、個々の生活のあり方を問うていかなければならず、福祉の観点を切り離しては、生活のあり方の追求や新たな生活様式の構築は実現できない。

このような社会状況を背景に、生活の質の観点から、個人や家族、高齢者や子ども、女性や障がい者など、多様な立場の人にとっての望ましい生活を、衣、食、住、家族の諸点から多角的に追究する生活科学に対し、その生活科学が描く望ましい生活の実現と保障に向けて、高齢者や子ども、障がい者やひとり親世帯など、困難性の高い立場の人への支援のあり方やその実践について追究する社会福祉学、両者を内包する本学科において、現代社会における人間生活の目標とその実現への方策を総合的、包括的に教育、研究する意義は大きい。以上の学科の意義を理解し、関連しあう生活科学、社会福祉学を包括的に学んだうえで、目標となる生活のあり方の追求、あるいはその実現を支える支援に取り組む人材を養成する。

本学科は、平成29年4月に第1期37名の入学者を迎え入れた。新入生を対象として、オリエンテーションを実施し、本学の教育理念および学部・学科の教育目標、学位授与方針をはじめ、共通教育、学部共通教育、学科専門科目などのカリキュラム説明を含む履修ガイダンスを行い、きめ細やかな履修指導を実施した。1年間に取得できる単位の上限を46単位と定め、資格取得や2年次からのコース分属へ向けての十分な説明と共に、初年次教育の担当教員全員が履修登録時も個別の質問等に対応した。その後、フレッシュマンセミナーで、充実した学生生活を送れるように、学科独自の企画内容により、上級生、教員との交流を深めた。以上のとおり、本学科の設置の趣旨・目的達成のために、いくつかの取り組みを適正に行っている。以上のことから、設置の趣旨・目的を達成するための第一歩として、初年次教育を順調にスタートさせていると言える。なお、今年の一学期は、定員70名に対して入学者は37名の結果であり、8月末の設置認可を受けてからの本格広報活動となり学生募集に不利になった面もある。平成30年度募集にあたっては、入試広報(大学ホームページ(スマートフォン対応を含めて)や高等学校への学校訪問、個別説明会等)及び高等学校の模擬授業などを通じて、高校3年生だけでなく、2年生への情報発信を含めて、福祉生活デザイン学科の設置の目的や意義、教育課程の特色の周知を図り、志願者数の拡大に努めたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・平成30年5月1日 公表(予定)

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行し、関係機関等に各1冊を配布予定
- ・大学ホームページ(平成30年5月末を予定)

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成34年度に評価機関の評価を受けるべく、学内で検討中
※前回は平成27年度に評価機関(財団法人 大学基準協会)の評価を受けた。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期(未公表の場合は予定時期)

(29年7月末)

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人ノートルダム女学院

(2) 大学名

京都ノートルダム女子大学

(3) 大学の位置

〒606-0847
京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ワダ タマキ) 和田 環 (平成20年11月)		
学長	(セリタ ケンタロウ) 芹田 健太郎 (平成25年4月)	(サナダ マサコ) 眞田 雅子 (平成29年4月)	前任者は平成29年3月31日任期満了、平成29年4月に後任者が就任したため(29)
学部長	(ナカムラ クミ) 中村 久美 (平成29年4月)	(カトウ サチコ) 加藤 佐千子 (平成29年4月)	予定者は副学長に就任、平成29年4月に新たに就任したため(29)
学科主任	未定	(タカイ ナオミ) 高井 直美 (平成29年4月)	平成29年3月に決定したため(29)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
現代人間学部 心理学科 学士(心理学)	文学関係	4年	100人	- 年次人	400人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 100 (-) [-]	-	0.58倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	103 (-) [2]	- (-) [-]		
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	98 (-) [2]	- (-) [-]		
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	89 (-) [2]	- (-) [-]		
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	58 (-) [0]	- (-) [-]		
入学定員超過率 B/A							0.58			

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで**記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	58 [0] (-)	- [-] (-)	
2年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次					[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次							[] ()	[] ()	
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	58 [0] (-)		

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成26年度 入学者	人	人	平成26年度	人	人		%
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成27年度 入学者	人	人	平成27年度	人	人		%
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	人	平成28年度	人	人		%
			平成29年度	人	人		
平成29年度 入学者	58 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
合 計	58 人	0 人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<現代人間学部 心理学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	人間と文化	日本文学	1前	2							兼1		
		外国文学	1後	2							兼1		
		日本近現代史	1前	2							兼1		
		日本の宗教	1後	2							兼1		
		東アジア近現代史	1前	2							兼1		
		ヨーロッパ近現代史	1後	2							兼1	1 坂本優一郎の就任辞退の理由により、担当者の変更 (29)	
		歴史の中の女性	1後	2							兼1		
		身近な心理学	1前	2							兼1		
		文化人類学	1後	2							兼1		
	教養科目	生活と社会	暮らしの法律学	1前	2							兼1	
			憲法と人権	1後	2							兼1	
			暮らしの経済学	1後	2							兼1	
			国際関係論入門	1前	2							兼1	
			社会学概論	1前 1後	2							兼1	平成29年3月 翁和美の開講期変更の申出のため、開講期を変更 (29)
			ジェンダー論	1後 1前	2							兼1	平成29年3月 社会学概論の開講期変更による履修上の都合により、開講期を変更 (29)
			ボランティア概論	1前	2							兼1	1 沼野尚美の就任辞退の理由により、担当者の変更 (29)
			子育てとワークライフバランス	2前	1							兼1	
			こどもと子育ての生活環境学	2前	1							兼4	
	海外研修 (生活と社会)	1・2・3・4・休	1							兼2			
	人間と自然	人間と自然	身近な自然科学	1前	2							兼1	
			暮らしの統計学	1後	2		1						
			地球と宇宙の科学	1前	2							兼1	
			情報科学入門	1後	2							兼1	
			環境学概論	1後	2							兼1	
			身近な医学	1・2前	2		1					兼1	
			生命倫理	1後	2							兼1	
			こどもと自然	1通	2		1	1				兼2	
			基礎科目	外国語科目	英語基礎Ⅰ	1前	1						
	英語総合Ⅰ	1前			1							兼6	7 松本トヨの就任辞退、田中美和子の科目辞退により、担当者の変更及び教育充実のため、担当者の増員 (29)
	英語基礎Ⅱ	1後			1							兼5	伊藤薫の就任辞退の理由により、担当者の変更 (29)
英語総合Ⅱ	1後	1									兼6	7 松本トヨの就任辞退、田中美和子の科目辞退により、担当者の変更及び教育充実のため、担当者の増員 (29)	
日常の英会話	2前・後	1									兼3		
旅行の英会話	2後	1									兼2		
留学の英会話	2後	1									兼2		
おもてなしの英会話	2前	1									兼2		
やさしいビジネス英会話	2前	1									兼1		
歌って覚える英語表現	2後	1									兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	外国語科目 基礎科目	英語リスニング初級	2前	1							兼1	VALVERDEの就任辞退の理由により、 担当者の変更(29)
		英語リスニング中級	2後	1							兼1	
		読むための英語	2前	1							兼1	
		実用英語基礎	2後	1							兼1	
		身近な英文法	2前	1							兼1	
		アカデミック英語	3前	1							兼1	
		ドイツ語	1前	2							兼1	
		フランス語	1後	2							兼1	
		スペイン語	1前	2							兼4	
		アラビア語	1後	2							兼1	
		中国語Ⅰ	1前・後	2							兼3	
		中国語Ⅰ	1前・後	2							兼3	
		中国語Ⅲ	2前	2							兼1	
		コリア語Ⅰ	1前・後	2							兼1	
		コリア語Ⅱ	1後	2							兼1	
		コリア語Ⅲ	2前	2							兼1	
	海外研修(語学)Ⅰ	1・2・3・4休	2							兼1		
	海外研修(語学)Ⅱa	1・2・3休	2							兼1		
	海外研修(語学)Ⅱb	1・2・3・4休	2							兼1		
	日本語講読Ⅰ	1前	1							兼1	柴礼敏の授業担当数減の申出により、 担当者の追加(29)	
	日本語講読Ⅱ	1後	1							兼1		
	日本語表現Ⅰ	1前	1							兼1		
	日本語表現Ⅱ	1後	1							兼1		
	日本語特講Ⅰ	2前	1							兼1		
	日本語特講Ⅱ	2後	1							兼1		
	リテラシー・スポーツ科目	文章表現法	1前・後		2						兼1	
		情報演習Ⅰ	1前・後	1							兼1	
		情報演習Ⅱ	2前・後		1						兼1	
		情報処理	2前・後		2						兼3	
		体育講義	1後		1						兼1	
健康スポーツ演習		1前・後		2						兼3		
体育実技		1前		1						兼1		
基礎科目	カトリック教育科目	キリスト教入門	1前・後	2						兼1		
		キリスト教音楽入門	1前・後	1						兼1		
		聖書と文化	2前		2					兼1		
		キリスト教と日本文化	2後		2					兼2		
		キリスト教思想	2前		2					兼1		
		キリスト教美術	2後		2					兼1		
	キリスト教音楽	2後		2					兼1			
	ライフキャリア形成科目	ノートルダム学	1前	2						兼1		
女性とライフキャリア		1前・後		2					兼1			
ライオンズクラブ	ホスピタリティ入門	1前・後		2					兼1			
	ホスピタリティ京都	2・3前		2					兼2			
	キャリア形成	3前・後		2					兼1			
	キャリア形成ゼミ	2通		2					兼1			
	インターンシップ	2・3・4通		2					兼1			
海外インターンシップ	2・3・4休		2					兼1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部共通科目	現代社会とこども	1前		1		1					兼1		
	現代社会と女性・家族	1前		1		1					兼1		
	現代社会と高齢者	1前		1		1					兼1		
	現代社会と病者・障がい者	1前		1		1					兼3		
	病児の発達と支援	1休		2		2	1				兼7		
	情報科学	3前		2							兼1		
専門教育科目	基礎科目	心理学概論	1前	2			1						
		心理統計法Ⅰ	1前	2			1						
		心理統計法Ⅱ	1後	2			1						
		心理学基礎演習Ⅰ	1前	2			4				3 2		教育充実の理由により、担当者を追加(29) 担当 村松朋子(准教授) 平成29年1月 教員審査済 判定 可
		心理学基礎演習Ⅱ	1後	2			3				4 2 1		教育充実の理由により、担当者を追加(29) 担当 村松朋子(准教授) 平成29年1月 教員審査済 判定 可
		初級実験演習Ⅰ	1後	2			1					兼1	
		初級実験演習Ⅱ	2前		2		2					兼1	
		現代社会調査入門	1前		2		1						
		行動科学概論	1後		2		1						
		心理学研究法	2前	2			1						
		推測統計学Ⅰ	2前		2						1		
		推測統計学Ⅱ	2後		2						1		
		心理テスト演習	2前		2		1				2 1		教育充実の理由により、担当者を追加(29) 担当 村松朋子(准教授) 平成29年1月 教員審査済 判定 可
		質問紙調査法	2前		2						1		
		心理学英文講読(基礎)	2後		2							兼1	
		心理学英文講読(応用)	3後		2							兼1	
		上級実験演習	3前		2		1	1					
		心理学情報処理	3前・後		2		1						
心理カウンセリング実践(面接技法)	3前		2			2				兼2			
展開科目	基礎心理領域	知覚心理学	2・3前		2		1						
		学習の心理学	2後		2		1						
		認知心理学	3前		2							兼1	
		神経心理学	3・4後		2		1						
	生涯発達心理領域	教育心理学概論	1・2後		2		1						
		発達心理学概論	2・3前		2		1						
		現代青年の心理学	2・3後		2			1					
		高齢者の心理学	3・4前		2		1						
	社会・産業心理領域	現代社会の心理学	1後		2		1						
		対人関係論	2・3前		2		1						
		生活環境の心理学	2・3前		2		1						
		消費者行動の心理学	2・3前		2		1						
	家族心理学	2・3後		2						兼1			
	社会・ビジネス心理フィールド研修	2通		2		3	1						
	服飾心理学	2後		2						兼1			
	産業心理学	3後		2						兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	展開科目 臨床心理・精神医学領域	心理カウンセリング概論	1前	2			1						
		心理テスト論	1後	2		1							
		臨床心理学概論	2前	2		1							
		精神保健学Ⅰ	2前	2							兼1		
		精神保健学Ⅱ	2後	2							兼1		
		パーソナリティ心理学	2・3前	2		1							
		障害児・者の心理学	2・3前	2				2					
		臨床心理アセスメント	2後	2				2					
		無意識の心理学	2・3後	2				2					
		スクールカウンセリング論	3・4前	2				2					
		心理療法論	3・4前	2				1				兼1 専任教員就任の理由により、担当者を変更(29) 担当 村松朋子(准教授) 平成29年1月 教員審査済 判定可	
		心理関係法規論	3休	2								兼1	
		精神医学Ⅰ	2・3前	2			1						
		精神医学Ⅱ	2・3後	2			1						
		犯罪心理学	3・4後	2								兼1	
	認知行動療法概論	3後	2				1						
	心理カウンセリング実践(アートセラピー)	3後	2				2				兼1		
	心理カウンセリングフィールド研修	3通	2			2	2						
	専門教育科目	社会・ビジネス領域	現代ジャーナリズム論	1・2・3・4後	2								兼1
			福祉住環境デザイン	2前	2								兼1
食品流通論			2後	2								兼1	
消費者教育			3前	2								兼1	
衣生活情報論			3後	2								兼1	
ビジネスの基礎			4前	2								兼1 教育課程の充実により、科目名の変更(29)	
マーケティング論			4前	2								兼1	
女性起業論			4前	2								兼1	
関連科目 精神保健福祉領域		現代社会と福祉Ⅰ	1前	2								兼1 他学科の専任教員就任により、兼担として補充(29)	
		現代社会と福祉Ⅱ	1後	2								兼1 他学科の専任教員就任により、兼担として補充(29)	
		地域福祉論Ⅰ	3前	2								兼1	
		地域福祉論Ⅱ	3後	2								兼1	
		医学一般	2前	2								兼1	
		社会保障論Ⅰ	2前	2								平成29年10月 提出予定(29)	
		社会保障論Ⅱ	2後	2								平成30年3月 提出予定(29)	
精神保健福祉領域	障害者福祉論	2後	2								兼1		
	保健医療サービス	2後	2								兼1		
	公的扶助論	3前	2								平成30年3月 提出予定(29)		
	福祉行財政と福祉計画	3後	2								平成31年3月 提出予定(29)		
	権利擁護と成年後見制度	3前	2								兼1		
	精神科リハビリテーション学Ⅰ	3前	2								兼1		
	精神科リハビリテーション学Ⅱ	3後	2								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	精神保健福祉領域 関連科目	精神保健福祉論Ⅰ		2								兼1	
		精神保健福祉論Ⅱ		2									兼1
		精神保健福祉論Ⅲ		2									兼1
		精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）		2									兼1
		精神保健福祉相談援助の基盤（専門）		2									兼1
		精神保健福祉援助技術各論Ⅰ		2									兼1
		精神保健福祉援助技術各論Ⅱ		2									兼1
		精神保健福祉援助演習（基礎）				1	1						兼1
		精神保健福祉援助演習（専門）Ⅰ				1	1						兼1
		精神保健福祉援助演習（専門）Ⅱ				1	1						兼1
		精神保健福祉援助実習指導				3		1					兼1
		精神保健福祉援助実習Ⅰ				2		1					兼1
		精神保健福祉援助実習Ⅱ				2		1					兼1
		精神保健福祉援助実習Ⅲ				3		1					兼1
		社会福祉特講Ⅱ				2							兼1
		専門演習・卒業研究	心理学演習	3通	4			7	7 6				
卒業研究	4通		4			7	7 6						
卒業論文	4通			4		7	7 6						

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
17	158	8	183	17	158	8	183	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	「該当なし」					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	「該当なし」					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{183} = \boxed{0.00} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	校舎敷地と運動場用地 1(300m,徒歩5分) 校舎敷地と運動場用地 2(3.5km,車で15分)			
	校舎敷地	17,206 m ²	0 m ²	0 m ²	17,206 m ²				
	運動場用地	19,625 m ²	0 m ²	0 m ²	19,625 m ²				
	小 計	25,966 m ²	0 m ²	0 m ²	25,966 m ²				
	そ の 他	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²				
	合 計	36,831 m ²	0 m ²	0 m ²	36,831 m ²				
(2) 校 舎	専 用	30,169 m ²	12,670 m ²	0 m ²	30,169 m ²	大学全体			
	(30,169 m ²)	(12,670 m ²)	(0 m ²)	(30,169 m ²)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	41 室	6 室	14 室	4 室 (補助職員 2 人)	3 室 (補助職員 2 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			平成29年4月 専任教員1名を新規 採用のため(29)			
	現代人間学部 心理学科		14 13 室						
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌	電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標 本	大学全体での共用分を含む図書40,000冊 [35,000冊]	
		[うち外国書]冊	[うち外国書]種						[うち外国書]点
	現代人間学部	128,000 [33,330] (118,000 [32,100])	310 [60] (310 [60])	1,100 [540] (1,100 [540])	400 (340)	400 (400)	0 (0)		
	計	128,000 [33,330] (118,000 [32,100])	310 [60] (310 [60])	1,100 [540] (1,100 [540])	400 (340)	400 (400)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	3,625 m ²		198		278,111				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	2,004 m ²		トラック 1面 テニスコート 4面 トレーニングルーム 1室						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	「図書購入費」「設備購入費」は最新額に変更(29) 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	13,328千円 10,000千円	11,677千円 9,000千円	11,677千円 9,000千円	
	共同研究費等	3,200千円	3,200千円	設備購入費	19,000千円 15,223千円	5,000千円 1,500千円	5,000千円 1,500千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,410千円	1,130千円	1,130千円	1,163千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経営補助金, 雑収入, その他							

- (注) ・ 設置時の計画を, 申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合, 複数の様式に分ける必要はありません。なお, 「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を, その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は, その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については, 上段に完成年度の予定数値を, 下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては, 変更部分を赤字で見え消し修正するとともに, その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお, 昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については, 見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少, 建築計画の遅延)がある場合には, 「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	京都ノートルダム女子大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
人間文化学部									
英語英文学科	4	80	3年次5	420	学士(文学)	0.78	昭和36年度	京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地	平成29年入学定員変更110→80
人間文化学科	4	50	-	230	学士(人間文化)	0.65	平成12年度	同上	平成29年入学定員変更60→50
生活福祉文化学科	4	-	-	-	学士(生活福祉文化)	-	平成19年度	同上	平成29年より学生募集停止
心理学科	4	-	-	-	学士(心理)	-	平成17年度	同上	平成29年より学生募集停止
現代心理専攻	4	-	-	-				同上	
学校心理専攻	4	-	-	-				同上	
臨床心理専攻	4	-	-	-				同上	
現代人間学部									
福祉生活デザイン学科	4	70	-	280	学士(福祉生活デザイン)	0.52	平成29年度	同上	
心理学科	4	100	-	400	学士(心理学)	0.58	平成29年度	同上	
こども教育学科	4	70	-	280	学士(こども教育)	0.65	平成29年度	同上	
大学の名称	京都ノートルダム女子大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
(修士課程)									
人間文化研究科									
応用英語専攻	2	8	-	16	修士(応用英語)	0.15	平成14年度	京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地	
生活福祉文化専攻	2	6	-	12	修士(生活福祉文化)	0.12	平成16年度	同上	
人間文化専攻	2	3	-	6	修士(人間文化)	0.16	平成17年度	同上	
(博士前期課程)									
心理学研究科									
発達・学校心理学専攻	2	8	-	16	修士(心理)	0.15	平成17年度	同上	

臨床心理学専攻 (博士後期課程) 心理学研究科	2	7	-	14	修士 (心理)	0.88	平成17年度	同上
心理学専攻	3	4	-	12	修士 (心理)	0	平成17年度	同上

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<現代人間学部 心理学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	伊藤 一美 (49)	平成29年4月	現代社会と高齢者※ 病児の発達と支援※ 心理学基礎演習 I 高齢者の心理学 心理テスト論 心理カウンセリング フィールド研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文						
専	教授	上田 恵津子 (58)	平成29年4月	心理学概論 心理学基礎演習 I 初級実験演習 I 学習の心理学 現代社会の心理学 対人関係論 社会・ビジネス 心理フィールド研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文						
					専	教授	上田 恵津子 (58)	平成29年4月	初級実験演習 I	担当部分の変更 平成29年1月 AC教員審査済 (29)
専	教授	河瀬 雅紀 (58)	平成29年4月	身近な医学※ 現代社会と病者・障がい者※ 病児の発達と支援※ 心理学基礎演習 II 神経心理学 精神医学 I 精神医学 II 心理カウンセリング フィールド研修 精神保健福祉援助 演習(基礎) 精神保健福祉援助 演習(専門) I 精神保健福祉援助 演習(専門) II 心理学演習 卒業研究 卒業論文						
専	教授	高井 直美 (58)	平成29年4月	身近な心理学 こどもと自然 現代社会とこども※ 心理統計法 I 心理統計法 II 心理学基礎演習 I 初級実験演習 II 発達心理学概論 心理学演習 卒業研究 卒業論文						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	廣瀬 直哉 (50)	平成29年4月	暮らしの統計学 心理学基礎演習Ⅰ 行動科学概論 上級実験演習 知覚心理学 生活環境の心理学 消費者行動の心理学 社会・ビジネス心理 フィールド研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文						
専	教授	松島 るみ (42)	平成29年4月	心理学基礎演習Ⅱ 初級実験演習Ⅱ 現代社会調査入門 心理学情報処理 教育心理学概論 社会・ビジネス心理 フィールド研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文						
専	教授	向山 泰代 (54)	平成29年4月	現代社会と女性・ 家族※ 心理学基礎演習Ⅱ 心理学研究法	専	教授	向山 泰代 (54)	平成29年4月	心理テスト演習	担当部分の変更 平成29年1月 AC教員審査済 (29)
				心理テスト演習 臨床心理学概論 パーソナリティ 心理学 心理学演習 卒業研究 卒業論文						
専	准教授	尾崎(湯川)仁美 (45)	平成29年4月	心理学基礎演習Ⅱ 初級実験演習Ⅰ 推測統計学Ⅰ 推測統計学Ⅱ 質問紙調査法 現代青年の心理学 社会・ビジネス心理 フィールド研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文	専	准教授	尾崎(湯川)仁美 (45)	平成29年4月	初級実験演習Ⅰ	担当部分の変更 平成29年1月 AC教員審査済 (29)
専	准教授	薦田 未央 (46)	平成29年4月	こどもと自然 病児の発達と支援※ 心理学基礎演習Ⅱ 上級実験演習 障害児・者の心理学 精神保健福祉援助 実習指導 精神保健福祉援助 実習Ⅰ 精神保健福祉援助 実習Ⅱ 精神保健福祉援助 実習Ⅲ 心理学演習 卒業研究 卒業論文						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	佐藤 睦子 (55)	平成29年4月	心理学基礎演習Ⅱ スクール カウンセリング論 心理カウンセリング実践(アートセラピー) 心理カウンセリング フィールド研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文						
専	准教授	田中 誉樹 (54)	平成29年4月	心理学基礎演習Ⅰ 心理テスト演習 臨床心理 アセスメント 無意識の心理学 心理学演習 卒業研究 卒業論文	専	准教授	田中 誉樹 (55)	平成29年4月	心理テスト演習	担当部分の変更 平成29年1月 AC教員審査済 (29)
専	准教授	三好(鶴田)智子 (43)	平成29年4月	心理学基礎演習Ⅱ 心理カウンセリング 実践(面接技法) 心理カウンセリング 概論 心理カウンセリング実践(アートセラピー) 心理学演習 卒業研究 卒業論文						
専	准教授	空間(福富)美智子 (39)	平成29年4月	心理学基礎演習Ⅰ 心理カウンセリング 実践(面接技法) 認知行動療法概論 心理カウンセリング フィールド研修 心理学演習 卒業研究 卒業論文						
					専	准教授	村松 朋子 (42)	平成29年4月	心理学基礎演習Ⅰ 初級実験演習Ⅰ 心理テスト演習 心理療法論 心理学演習 卒業研究 卒業論文	平成29年1月 AC教員審査済 (29)
兼任	教授	岩崎(馬詰)れい (49)	平成29年4月	子育てとワーク ライフバランス 病児の発達と支援※						
兼任	教授	牛田 好美 (58)	平成30年4月	こどもと子育ての 生活環境学※ 服飾心理学 衣生活情報論						
兼任	教授	加藤 佐千子 (59)	平成29年4月	現代社会と高齢者※						
兼任	教授	小西 加保留 (67)	平成30年10月	保健医療サービス						
兼任	教授	工藤 哲夫 (59)	平成29年4月	現代社会とこども※						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	朱(佐藤)鳳(54)	平成29年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 海外研修(語学)Ⅰ						
兼任	教授	須川 いずみ(62)	平成29年4月	海外研修(語学)Ⅱa 海外研修(語学)Ⅱb						
兼任	教授	鷺見 朗子(54)	平成29年10月	外国文学 アラビア語						
兼任	教授	竹原 広実(53)	平成30年4月	こどもと子育ての生活環境学※ 福祉住環境デザイン						
兼任	教授	中村 久美(58)	平成30年4月	こどもと子育ての生活環境学※						
兼任	教授	萩原 暢子(63)	平成29年4月	身近な医学※ 病児の発達と支援※ 医学一般						
兼任	教授	藤原 智子(55)	平成29年4月	こどもと子育ての生活環境学※ 海外研修(生活と社会)						
兼任	教授	三好 明夫(58)	平成29年4月	現代社会と病者・障がい者※						
兼任	教授	吉田 智子(55)	平成29年4月	情報科学入門 情報演習Ⅰ 情報演習Ⅱ 情報処理						
				現代社会と福祉Ⅰ 現代社会と福祉Ⅱ	兼任	教授	室田 保夫(68)	平成29年4月	現代社会と福祉Ⅰ 現代社会と福祉Ⅱ	他学科の専任教員就任により、兼任として補充(29)
兼任	准教授	石井 浩子(47)	平成29年4月	病児の発達と支援※						
兼任	准教授	植田 恵理子(56)	平成29年4月	病児の発達と支援※						
兼任	准教授	江川 正一(61)	平成29年4月	現代社会と病者・障がい者※ 病児の発達と支援※						
兼任	准教授	太田 容次(53)	平成29年4月	病児の発達と支援※						
兼任	准教授	小川 博士(35)	平成29年4月	身近な自然科学 こどもと自然						
兼任	准教授	久野 将健(51)	平成29年4月	キリスト教音楽入門 キリスト教音楽						
兼任	准教授	神月 紀輔(52)	平成31年4月	情報科学						
兼任	准教授	酒井 久美子(54)	平成29年4月	海外研修(生活と社会) 現代社会と病者・障がい者※ 地域福祉論Ⅰ 地域福祉論Ⅱ						

設置時の計画				変更状況					備考	
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月		担当授業科目名
兼任	准教授	佐藤 純 (53)	平成29年10月	精神保健学Ⅰ 精神保健学Ⅱ 精神保健福祉論Ⅰ 精神保健福祉論Ⅱ 精神保健福祉論Ⅲ 精神保健福祉相談 援助の基盤(基礎) 精神保健福祉相談 援助の基盤(専門) 精神保健福祉援助 演習(基礎) 精神保健福祉援助 演習(専門)Ⅰ 精神保健福祉援助 演習(専門)Ⅱ 精神保健福祉援助 実習指導 精神保健福祉援助 実習Ⅰ 精神保健福祉援助 実習Ⅱ 精神保健福祉援助 実習Ⅲ 社会福祉特講Ⅱ						
兼任	准教授	東郷 多津 (53)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ 英語リスニング初級 英語リスニング中級 インターンシップ						
兼任	准教授	長沼 光彦 (54)	平成29年4月	日本文学 ホスピタリティ京都						
兼任	准教授	畠山 寛 (45)	平成29年4月	病児の発達と支援※						
兼任	准教授	平野 美保 (49)	平成30年4月	キャリア形成 キャリア形成ゼミ						
兼任	准教授	藤本(下村)陽三 (63)	平成29年4月	こどもと自然						
兼任	准教授	吉田(小野澤)朋子 (45)	平成30年10月	キリスト教美術						
兼任	講師	青木(高柴)加奈子 (38)	平成29年4月	女性とライフ キャリア 現代社会と女性・ 家族※						
兼任	講師	中里 郁子 (52)	平成29年4月	キリスト教入門 聖書と文化						
兼任	講師	矢島 雅子 (38)	平成30年10月	障害者福祉論						
兼任	講師	York Weatherford (50)	平成30年4月	読むための英語 アカデミック英語						
兼任	助教	住本 純 (34)	平成29年4月	体育講義 健康スポーツ演習						
兼任	講師	青木 三陽 (41)	平成29年4月	ドイツ語						
兼任	講師	石川 真美 (57)	平成29年4月	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ						
兼任	講師	石田 正浩 (54)	平成31年10月	産業心理学						
兼任	講師	伊藤 薫 (29)	平成29年4月	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ	兼任	講師	黒田 一平 (29)	平成29年4月	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ	平成29年1月 伊藤薫の就任 辞退のため、担当者の変更 (29)

設置時の計画				変更状況					備考	
専任・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月		担当授業科目名
兼任	講師	伊藤 泰子 (51)	平成30年4月	情報処理						
兼任	講師	稲垣 顕子 (63)	平成29年4月	日本語講読Ⅰ 日本語講読Ⅱ						
兼任	講師	伊村 大樹 (42)	平成29年4月	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ						
兼任	講師	岩田 真理子 (62)	平成29年4月	ホスピタリティ入門						
兼任	講師	翁 和美 (47)	平成29年10月	社会学概論	兼任	講師	翁 和美 (47)	平成29年4月	社会学概論	平成29年3月 開講期の変更のため、就任予定年月を変更(29)
兼任	講師	王 嵐 (61)	平成29年4月	中国語Ⅰ						
兼任	講師	大畑 好司 (66)	平成31年4月	心理関係法規論						
兼任	講師	荻原 靖史 (61)	平成29年4月	現代ジャーナリズム論						
兼任	講師	小都 晶子 (41)	平成29年4月	東アジア近現代史						
兼任	講師	郭 南燕 (54)	平成30年10月	キリスト教と日本文化※						
兼任	講師	梶山(十河)玉香 (50)	平成29年4月	暮らしの法律学						
兼任	講師	片山 裕 (67)	平成29年4月	国際関係論入門 ノートルダム学 海外インターン シップ						
兼任	講師	金 美仙 (52)	平成29年4月	コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語Ⅲ						
兼任	講師	工藤 春代 (41)	平成30年10月	食品流通論 消費者教育						
兼任	講師	久保 圭 (33)	平成29年4月	文章表現法						
兼任	講師	黒田 一平 (29)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ						
兼任	講師	小島 秀信 (39)	平成29年10月	暮らしの経済学						
兼任	講師	柴 礼敏 (62)	平成29年4月	中国語Ⅰ	兼任	講師	陶 盈 (37)	平成29年4月	中国語Ⅰ	平成29年2月 柴礼敏の授業担当数減の申出のため、担当者の追加(29)
兼任	講師	坂本 優一郎 (46)	平成29年10月	ヨーロッパ近現代史	兼任	講師	森本 慶太 (36)	平成29年10月	ヨーロッパ近現代史	平成29年1月 坂本優一郎の就任辞退のため、担当者の変更(29)
兼任	講師	笹岡 隆甫 (42)	平成30年4月	ホスピタリティ京都						
					兼任	学長	眞田 雅子 (74)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	教育の充実を図るため、担当者の増員(29)
兼任	講師	須藤 英幸 (50)	平成30年4月	キリスト教思想						

設置時の計画				変更状況					備考	
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月		担当授業科目名
兼任	講師	高岸 雅子 (58)	平成29年4月	日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ						
兼任	講師	橋 健一 (52)	平成29年10月	文化人類学						
兼任	講師	多田(茂木)昌代 (49)	平成31年4月	心理療法論						
兼任	講師	田中 貴子 (61)	平成30年4月	日本語特講Ⅰ						
兼任	講師	田中 敏彦 (64)	平成29年10月	フランス語						
兼任	講師	田中 美和子 (55)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ 実用英語基礎 身近な英文法	兼任	講師	薦田 和美 (58)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	平成29年3月 田中美和子の 科目辞退のため、担当者の 変更(29)
兼任	講師	玉井 雅人 (47)	平成29年4月	地球と宇宙の科学						
兼任	講師	大喜 直彦 (56)	平成29年4月	日本近現代史 日本の宗教						
兼任	講師	知名 純子 (43)	平成31年4月	精神保健福祉援助 技術各論Ⅰ 精神保健福祉援助 技術各論Ⅱ						
兼任	講師	鶴田 薫 (54)	平成30年4月	心理テスト演習 心理カウンセリング 実践(面接技法)						
兼任	講師	寺西 みどり (63)	平成29年4月	歴史の中の女性 英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ						
兼任	講師	豊田 陽介 (39)	平成29年10月	環境学概論						
兼任	講師	土井 裕明 (53)	平成31年4月	権利援護と 成年後見制度						
兼任	講師	中村 央希 (33)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	兼任	講師	岡崎 央希 (33)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	平成29年3月 氏名の変更(29)
兼任	講師	中村 千珠 (39)	平成29年10月	初級実験演習Ⅰ 初級実験演習Ⅱ 心理学英文購読 (基礎) 心理学英文購読 (応用)						
兼任	講師	中村 亮太 (35)	平成30年4月	情報処理						
兼任	講師	新村 佳史 (56)	平成30年4月	ビジネスの基礎 マーケティング論	兼任	講師	新村 佳史 (56)	平成30年4月	ビジネスの基礎Ⅰ ビジネスの基礎Ⅱ ソーシャルマー ケティング論	平成29年3月 教育課程の充実 のため、科目名の変更(29) 平成30年4月から教育課程の 充実を図るため、科目を追加 (29) 平成30年4月から教育課程の 充実を図るため、科目を追加 (29)

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	講師	沼野 尚美 (60)	平成29年4月	ボランティア概論	兼任	講師	志藤 修史 (53)	平成29年4月	ボランティア概論	平成29年3月 沼野尚美の就任辞退のため、担当者の変更(29)
兼任	講師	野村 照夫 (58)	平成29年4月	健康スポーツ演習						
兼任	講師	野村 晴美 (58)	平成29年4月	健康スポーツ演習 体育実技						
兼任	講師	橋本 史人 (45)	平成31年4月	精神科リハビリテーション学Ⅰ 精神科リハビリテーション学Ⅱ						
兼任	講師	日比 伊奈穂 (44)	平成30年10月	日本語特講Ⅱ						
兼任	講師	福山 幸子 (49)	平成30年4月	心理テスト演習 心理カウンセリング実践(面接技法) 家族心理学 心理カウンセリング実践(アートセラピー)						
兼任	講師	藤川 洋子 (66)	平成31年10月	犯罪心理学						
兼任	講師	藤田 朋子 (55)	平成29年4月	ジェンダー論	兼任	講師	藤田 朋子 (55)	平成29年10月	ジェンダー論	平成29年3月 開講期の変更のため、就任予定年月を変更(29)
兼任	講師	藤本 幸治 (47)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ						
兼任	講師	松井 吉康 (55)	平成29年10月	生命倫理						
兼任	講師	松本 ドロタ (44)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	兼任	講師	森 ユキエ (67)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	平成29年2月 松本ド時の就任辞退のため、担当者の変更(29)
兼任	講師	村上 裕美 (56)	平成29年4月	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ						
兼任	講師	森下 正修 (43)	平成31年4月	認知心理学						
兼任	講師	横山(須賀)真紀 (42)	平成29年10月	憲法と人権						
兼任	講師	吉村(竹内)恵 (61)	平成29年10月	女性起業論						
兼任	講師	Eric Hail (46)	平成30年4月	日常の英会話 旅行の英会話 やさしいビジネス英会話						
兼任	講師	Jacoba Akazawa (61)	平成30年4月	日常の英会話 旅行の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話						
兼任	講師	Jodie Campbell (47)	平成30年4月	日常の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話 歌って覚える英語表現						
兼任	講師	John Breen (61)	平成30年10月	キリスト教と日本文化※						
兼任	講師	VALVERDE IDAN EZ María del Pilar (36)	平成29年4月	スペイン語	兼任	講師	安藤 幸治 (42)	平成29年4月	スペイン語	平成29年3月 VALVERDEの就任辞退のため、担当者の変更(29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」,「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**,当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し,大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」,変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお,設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は,「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由,変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
10 名	5 名

- (注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員数

設置時の計画					現在(報告書提出時)の状況					現在(報告書提出時)の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
7	6	0	0	13	7	7	0	0	14	7	7	0	0	14
(7)	(6)	(0)	(0)	(13)						[0]	[1]	[0]	[0]	[1]

- (注) ・ 「設置時の計画」には,設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに,()内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在(報告書提出時)の状況」には,報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 - ・ 「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には,報告書提出年度の5月1日現在,完成年度時に計画している教員数を記入するとともに,[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例:1名減の場合:△1)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告書提出時(上記(A))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(B))の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65又は70 歳	0	0 名

- (注) ・ 「年齢構成」には,当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません),および,平成29年5月1日現在,定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお,職位等によって定年年齢が異なる場合には,職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し,「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		「該当なし」				
合計（A）				後任補充状況の集計（B）		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
「該当なし」						

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		「該当なし」				
合計（C）				後任補充状況の集計（D）		
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
「該当なし」						

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（A）+（C）		後任補充状況の集計（B）+（D）		
辞任等した教員数	担当科目数の合計（a）+（b）+（c）	①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
「該当なし」				

(注)・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」

(注)・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成28年8月)	「卒業研究」も「卒業論文」も4年次通年科目であるにもかかわらず、「『卒業研究』で個人による心理学的研究を行ったもの」を「卒業論文」の履修対象者との記載があるため、学生がどの時点で「卒業論文」の履修を決定するのか、口頭試問を行う主査・副査の選定方法等を明確にした上で、学生に対して適切な履修指導を行うことが望ましい。また、大学院進学者や認定心理士資格取得希望者以外でも、希望があれば「卒業論文」を選択履修できるよう配慮することが望ましい。	その他意見 平成29年2月に心理学科において、「コース選択・ゼミ分け・卒業研究・卒業論文」検討ワーキング・グループ（以下「WG」）を設置した。本WGは、教務委員をリーダーとし、5名の専任教員で構成し、平成29年度入学生が2年次進級時にコースを選択する方法及び3年次進級時のゼミ選択と卒業研究・卒業論文に関する詳細な取り決めを検討している。検討の過程については、心理学科において共有し、最終的に心理学科の履修上の指導要領として取り決める。 (29)	平成29年度中に具体的な指導要領を取り決める。(29)
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年2月)	「該当なし」		
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年2月)	「該当なし」		
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年2月)	「該当なし」		

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<現代人間学部 心理学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
「該当なし」	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 京都ノートルダム女子大学FD委員会を設置（別添1参照）</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） ・毎月1回（8月及び12月を除く）年間10回開催 ・委員は各学科から選出された教員と担当課長で構成し、全員出席を原則としている。</p> <p>c 委員会の審議事項等 ・FD活動の企画立案 ・授業評価等、全学的なFD活動の実施計画の策定及び評価 ・全学的なFDに関する研修及び研究 ・FD報告書の作成 ・FDに関する情報の収集と提供 ・FD関係団体との連携に関すること ・その他、FD活動に必要な事項</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 ・教員研修会については、FD研修会（前期2～3回実施）、全学教員FD研修会（後期1回実施）を実施 ・大学コンソーシアム京都主催の「FDフォーラム」に委員として参画及び教職員の参加 ・オープンクラスの実施</p> <p>b 実施方法 ・FD委員会で企画し、年間を通じて全教職員を対象に全学的に実施している。 ・研修会の実施方法 参加対象は専任教職員とし、うち教員には参加を義務づけている。 実施形式は、学内外の講師による講演・講義形式、学内教員によるディスカッション形式での実施である。 ・オープンクラスの実施方法 参加対象は、専任教職員、非常勤教職員、学生 公開可能な授業を一定期間オープンとする「オープンクラス・ウィーク」及び抽出した特定の授業を公開している。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む） ・FD研修会等 複数の機会を提供し教員参加の機会を確保。平成28年度は延べ参加者数90名（うち教員75名（在籍者67名））であった。 ・全学教員FD研修会 平成28年度は学外講師を迎えて実施した。出席者数は43名で専任教員の約3分の2であった。 ・オープンクラス 平成28年度は前期2週間、後期3週間の「オープンクラス・ウィーク」を実施した。授業参観者の「参観者コメントシート」提出数は、前期48、後期32であった。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 ・研修会によって、大学教育の動向や考え方、アクティブラーニング等の授業手法、情報機器や授業支援システムの活用法等が教員間で共有され、授業改善に活かされている。 ・オープンクラスでは、教員間で授業について検討することにより、授業方法の知識や技能を共有し授業改善に反映されるよう問題の共有を図っている。</p>

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・全学的にはほぼ全科目実施している。
- ・実施時期は、毎年、前期 7月、後期 12～1月

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・実施結果は、教職員及び学生が閲覧できるようにしている。また、WEB上においても公表している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

現代人間学部心理学科の設置の趣旨・目的は、「現代社会の要請に応えるために、心理学の専門性を高度にしつつ生活科学や社会福祉学などの隣接分野を融合させ、急速に進展するグローバル化・情報化社会及び少子高齢化社会が抱える諸課題について広い視野から心理学教育及び研究を行うことにより、多様化・複雑化する現代社会が抱える諸問題を柔軟かつ創造的に解決へと導くことのできる人材の養成をめざす。心理学科では、臨床心理領域、社会心理領域を主な領域に据え、認知心理学、学習心理学、教育心理学、発達心理学などの心理学諸領域を統合させ、さらには生活科学、社会福祉学などの隣接領域とも有機的に関連づけた教育・研究をめざす。これにより、社会のさまざまな現場で必要とされる心理学の実証的な理論と技法を身につけ、幅広くかつ多様な観点から「人間の行動・こころ」の理解を深化させ、心理学の実践的技能を社会の安寧と人々の幸福の実現に向けて応用できる人材養成に向けた教育・研究を可能にする」とした。

これらの趣旨・目的を達成するため、心理学科では、臨床心理領域に関係する「心理カウンセリングコース」と社会心理領域に関係する「社会・ビジネス心理コース」の2コースのカリキュラムを設置している。心理学科のカリキュラムは、心理学の基礎から応用の諸領域を網羅したバランスのよい科目構成であると同時に、生活科学や社会福祉学に関係する科目を選択することも可能にしており、専門性と汎用性の両方を兼ね備えた構成になっている。平成29年度に入学した新入生に対しては、履修登録時のオリエンテーションにおいて、2コースのカリキュラムを提示すると同時に、これらのコースで企図しているキャリア形成についても、スライドや配布資料で、学生に意識づけを行った。そして、2コースの選択は2年次進級時に行うことを学生に周知させたことから、1年次生の履修登録において、コース選択を意識した科目選択を行うように方向づけることができた。また、1年次前期における心理学基礎演習Ⅰにおいては、現代人間学部心理学科の前身の心理学部心理学科で心理学を学ぶ上級生や心理学研究科の大学院生による、インターンシップやフィールド研修等に関する成果発表を計画しており、心理学の実践的技能を、社会の中で身につけるため研鑽を積んでいる、先輩による模範となるモデルに出会う機会を提供する予定である。以上のことから、設置の趣旨・目的を達成するための第一歩として、初年次教育を順調にスタートさせていると言える。今後、さらなる趣旨・目的達成のために、さまざまな取り組みを検討・実行していく。

なお、今年の一期生は、定員100名に対して入学者は58名の結果であり、8月末の設置認可を受けてからの本格広報活動となり学生募集に不利になった面もある。平成30年度募集にあたっては、入試広報(大学ホームページ(スマートフォン対応を含めて)や高等学校への学校訪問、個別説明会等)及び高等学校の模擬授業などを通じて、高校3年生だけでなく1、2年生への情報発信を含めて、心理学科の設置の目的や意義、教育課程の特色の周知を図り、志願者数の拡大に努めたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・平成30年5月1日 公表(予定)

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行し、関係機関等に各1冊を配布予定
- ・大学ホームページ(平成30年5月末を予定)

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成34年度に評価機関の評価を受けるべく、学内で検討中
※前回は平成27年度に評価機関(財団法人 大学基準協会)の評価を受けた。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期(未公表の場合は予定時期)

(29年7月末)

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人ノートルダム女学院

(2) 大学名

京都ノートルダム女子大学

(3) 大学の位置

〒606-0847

京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ワダ タマキ) 和田 環 (平成20年11月)		
学長	(セリタ ケンタロウ) 芹田 健太郎 (平成25年4月)	(サナダ マサコ) 真田 雅子 (平成29年4月)	前任者は平成29年3月31日任期満了、平成29年4月に後任者が就任したため(29)
学部長	(ナカムラ クミ) 中村 久美 (平成29年4月)	(カトウ サチコ) 加藤 佐千子 (平成29年4月)	予定者は副学長に就任、平成29年4月に新たに就任したため(29)
学科主任	未定	(クドウ テツオ) 工藤 哲夫 (平成29年4月)	平成29年3月に決定したため(29)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位を追加してください。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
現代人間学部 子ども教育学科 学士(子ども教育)	教育学・保育学関係	4年	70人	— 年次人	280人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	() []	() []	70 (—) [—]		0.65倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	83 (—) [0]	— (—) [—]		
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	82 (—) [0]	— (—) [—]		
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	68 (—) [0]	— (—) [—]		
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	46 (—) [0]	— (—) [—]		
入学定員超過率 B/A							0.65			

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで**記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	46 [0] (-)	- [-] (-)	
2 年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3 年次					[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4 年次							[] ()	[] ()	
計	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	46 [0] (-)		

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成26年度 入学者	人	人	平成26年度	人	人		%
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成27年度 入学者	人	人	平成27年度	人	人		%
			平成28年度	人	人		
			平成29年度	人	人		
平成28年度 入学者	人	人	平成28年度	人	人		%
			平成29年度	人	人		
平成29年度 入学者	46 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
合 計	46 人	0 人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<現代人間学部 こども教育学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	人間と文化	日本文学	1前	2							兼1	
		外国文学	1後	2							兼1	
		日本近現代史	1前	2							兼1	
		日本の宗教	1後	2							兼1	
		東アジア近現代史	1前	2							兼1	
		ヨーロッパ近現代史	1後	2							兼1	1 坂本優一郎の就任辞退の理由により、担当者の変更 (29)
		歴史の中の女性	1後	2							兼1	
		身近な心理学	1前	2							兼1	
		文化人類学	1後	2							兼1	
	生活と社会	暮らしの法律学	1前	2							兼1	
		憲法と人権	1後	2							兼1	
		暮らしの経済学	1後	2							兼1	
		国際関係論入門	1前	2							兼1	
		社会学概論	1前 1後	2							兼1	平成29年3月 翁和美の開講期変更の申出のため、開講期を変更 (29)
		ジェンダー論	1後 1前	2							兼1	平成29年3月 社会学概論の開講期変更による履修上の都合により、開講期を変更 (29)
		ボランティア概論	1前	2							兼1	1 沼野尚美の就任辞退の理由により、担当者の変更 (29)
		子育てとワークライフバランス	2前	1							兼1	
		こどもと子育ての生活環境学	2前	1							兼4	
	海外研修 (生活と社会)	1・2・3・4・休	1							兼2		
	人間と自然	身近な自然科学	1前	2			1				兼1	
		暮らしの統計学	1後	2							兼1	
		地球と宇宙の科学	1前	2							兼1	
		情報科学入門	1後	2							兼1	
		環境学概論	1後	2							兼1	
		身近な医学	1・2前	2			1				兼1	
		生命倫理	1後	2							兼1	
		こどもと自然	1通	2						2	兼2	
	外国語科目	英語基礎Ⅰ	1前	1							兼5	伊藤薫の就任辞退の理由により、担当者の変更 (29)
		英語総合Ⅰ	1前	1							兼6	7 松本トモの就任辞退、田中美和子の科目辞退により、担当者の変更及び教育充実のため、担当者の増員 (29)
		英語基礎Ⅱ	1後	1							兼6	伊藤薫の就任辞退の理由により、担当者の変更 (29)
		英語総合Ⅱ	1後	1							兼6	7 松本トモの就任辞退、田中美和子の科目辞退により、担当者の変更及び教育充実のため、担当者の増員 (29)
		日常の英会話	2前・後	1							兼3	
		旅行の英会話	2後	1							兼2	
留学の英会話		2後	1							兼2		
おもてなしの英会話		2前	1							兼2		
やさしいビジネス英会話		2前	1							兼1		
歌って覚える英語表現		2後	1							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	基礎科目	英語リスニング初級	2前	1							兼1	
		英語リスニング中級	2後	1							兼1	
		読むための英語	2前	1							兼1	
		実用英語基礎	2後	1							兼1	
		身近な英文法	2前	1							兼1	
		アカデミック英語	3前	1							兼1	
		ドイツ語	1前	2							兼1	
		フランス語	1後	2							兼1	
		スペイン語	1前	2							兼4	1 VALVERDEの就任辞退の理由により、 4 担当者の変更 (29)
		アラビア語	1後	2							兼1	
		中国語Ⅰ	1前・後	2							兼3	4 柴礼敏の授業担当数減の申出により、 3 担当者の追加 (29)
		中国語Ⅱ	1後	2							兼1	
		中国語Ⅲ	2前	2							兼1	
		ロシア語Ⅰ	1前・後	2							兼1	
	ロシア語Ⅱ	1後	2							兼1		
	ロシア語Ⅲ	2前	2							兼1		
	海外研修(語学)Ⅰ	1・2・3・4休	2							兼1		
	海外研修(語学)Ⅱa	1・2・3休	2							兼1		
	海外研修(語学)Ⅱb	1・2・3・4休	2							兼1		
	日本語講読Ⅰ	1前	1							兼1		
	日本語講読Ⅱ	1後	1							兼1		
	日本語表現Ⅰ	1前	1							兼1		
	日本語表現Ⅱ	1後	1							兼1		
	日本語特講Ⅰ	2前	1							兼1		
	日本語特講Ⅱ	2後	1							兼1		
	リテラシー・スポーツ科目	文章表現法	1前・後		2						兼1	
		情報演習Ⅰ	1前・後	1							兼1	
		情報演習Ⅱ	2前・後		1						兼1	
		情報処理	2前・後		2						兼3	
		体育講義	1後		1				1			
		健康スポーツ演習	1前・後		2					1		兼2
		体育実技	1前		1							兼1
基礎科目	カトリック教育科目	キリスト教入門	1前・後	2							兼1	
		キリスト教音楽入門	1前・後	1							兼1	
		聖書と文化	2前		2						兼1	
		キリスト教と日本文化	2後		2						兼2	
		キリスト教思想	2前		2						兼1	
		キリスト教美術	2後		2						兼1	
		キリスト教音楽	2後		2						兼1	
	ライフキャリア形成科目	ノートルダム学	1前	2							兼1	
		女性とライフキャリア	1前・後		2						兼1	
		ホスピタリティ入門	1前・後		2						兼1	
		ホスピタリティ京都	2・3前		2						兼2	
		キャリア形成	3前・後		2						兼1	
		キャリア形成ゼミ	2通		2						兼1	
		インターンシップ	2・3・4通		2						兼1	
海外インターンシップ	2・3・4休		2						兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通科目	現代社会と子ども	1前		1		1					兼1	
	現代社会と女性・家族	1前		1							兼2	
	現代社会と高齢者	1前		1							兼2	
	現代社会と病者・障がい者	1前		1			1				兼3	
	病児の発達と支援	1休		2		1	5				兼4	
	情報科学	3前		2			1					
基礎科目	子ども教育基礎演習	1前	1			4	10	1	1			
	子ども教育フィールド研修	1前	1			3	10	1	1			
	教職論	1前	2				1					
	教育原理	1前	2			1						
	教育史	3後		2							兼1	
	こどもの教育心理学	1前	2				1					
	こどもの発達心理学	1後		2			1					
	教育と社会	2後		2		1						
	教育経営論	2後		2			1					
専門教育科目	幼小共通科目	教育課程論	2後		2		1					
		教育の方法と技術	2後	2			1					
		教育評価	3後		2				1			
		教育相談の理論と方法	3前	2								兼1
		教育実習事前事後指導	3前		1		1	1				
		初等教育実習Ⅰa	3前		2		2	7	1	1		
		初等教育実習Ⅱa	4前		2		2	7	1	1		
		初等教育実習Ⅰb	3前		2		2	7	1	1		
		初等教育実習Ⅱb	4前		2		2	7	1	1		
		教職実践演習(幼・小)	4後		2		2	1				
	国語	1後		2		1						
	算数	1後		2			1					
	生活	1後		2			1	1				
	障害児・者の心理学	2前		2							兼1	
	学習の心理学	2後		2							兼1	
	スクールカウンセリング論	3前		2							兼1	
	教職専門ゼミナール	3前		2			1					
展開科目	幼保共通科目	保育課程論	3前		2		1					
		保育内容総論	1後		2			1				
		保育内容(健康)	2前		2			1				
		保育内容(人間関係)	2前		2		1					
		保育内容(環境)	2前		2							兼1
		保育内容(言葉)	2後		2							兼1
		保育内容(表現)	2後		2				2	4		オムバス科目へ変更の理由により、担当者の増員(29)
	幼児理解の理論と方法	1後		2			1				兼2	
	保育・教職実践演習	4後		2			3				オムバス科目へ変更の理由により、担当者の増員(29)	
	乳児保育	3後		2			1					
	障害児保育	3後		2			1					
	こどもの保健Ⅰ	2後		2		1						
	こどもの保健Ⅱ	3前		2		1						
	こどもの保健演習	2休		1		1						
	こどもの食と栄養	3前		2							兼1	
	家族援助論	3前		2							兼1	
	保育相談支援	3後		1							兼1	
保育表現演習Ⅰ	3前		1		1	4						

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手			
専門 教育 科目	幼保 共通 科目	保育表現演習Ⅱ	3後	1		1	4						
		保育心理学演習	2前	1			1						
		保育原理	1後	2				1					
		保育者論	1後	2			1						
		保育実習指導Ⅰ-1	2前	1			1	4					
		保育実習指導Ⅰ-2	2後	1			1	2					
		保育実習指導Ⅱ	3後	1			1	3					
		保育実習Ⅰ-1	2休	2			1	4					
		保育実習Ⅰ-2	2休	2			1	2					
		保育実習Ⅱ	3休	2			1	4					
		児童福祉論	2前	2								兼 1	
		現代社会と福祉Ⅰ	2前	2								兼 1 他学科の専任教員就任により、兼任 として補充(29)	
		現代社会と福祉Ⅱ	2後	2								兼 1 他学科の専任教員就任により、兼任 として補充(29)	
		地域福祉論Ⅰ	2後	2								兼 1	
		相談援助演習	2前	1								兼 1	
	社会的養護	2後	2								兼 1		
	社会的養護内容	2後	1								兼 1		
	展 開 科 目	学 科 共 通 科 目	ピアノ実技	1前	1			2					
			音楽Ⅰ	1後	1			2					
			音楽Ⅱ	2前	1			2					
			音楽Ⅲ	2後	1			2					
			図工Ⅰ	2前	1			1					
			図工Ⅱ	2前	1			1					
			体育Ⅰ	2前	1						1		
			体育Ⅱ	2前	1						1		
			環境教育	3後	2				1				
			情報教育	3前	2				1				
			食と健康の教育	3後	2								1 平野江美の就任辞退の理由により、 兼 4 担当者の変更(29)
			こども英語教育Ⅰ	2前	2								兼 1
			こども英語教育Ⅱ	2後	2								兼 1
			国際理解教育	4前	2								兼 1
	小 学 校 科 目	小 学 校 科 目	国語科指導法	2前	2		1						
			社会科指導法	2前	2					1			
			算数科指導法	2前	2				1				
			理科指導法	2前	2				1				
			生活科指導法	2前	2				1	1			
			音楽科指導法	2後	2				1				
			図工科指導法	2後	2				1				
			家庭科指導法	2後	2								兼 1
体育科指導法			2後	2						1			
道徳の指導法			3前	2				1					
特別活動の指導法			3前	2				1					
生徒指導・進路指導			3前	2				1					
社会			1後	2						1			
理科			1後	2				1					
書写	2後	1								兼 1			
家庭	2前	2								兼 1			
小学校英語教育Ⅰ	2前	2								兼 1			
小学校英語教育Ⅱ	2後	2								兼 1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	小学校科目	総合的な学習の指導法	3後	2				1						
		アクティブラーニングの指導法	3後	2		1								
		学習デザイン論	4前	2		1								
		初等教材開発論	4前	2					1					
		小学校表現活動論	4前	2				3		1				
		消費者教育	3前	2								兼1		
		こども情報リテラシー	1前	2				1						
		子どもの読書とメディア	2・3・4後	2								兼1		
	展開科目	特別支援科目	特別支援教育基礎理論	1後	2			1				兼1	教育充実の理由により、担当者の追加(29)	
			知的障害者の心理・生理・病理	2前	2		1							
			肢体不自由者の心理・生理・病理	2前	2		1							
			病弱者の心理・生理・病理	2前	2		2							
			知的障害者教育論Ⅰ	2後	2			1						
			知的障害者教育論Ⅱ	3前	2			1						
			肢体不自由者教育論Ⅰ	2後	2		1							
			肢体不自由者教育論Ⅱ	3前	2		1							
			病弱者教育論Ⅰ	3前	2		1							
			病弱者教育論Ⅱ	3後	2		1							
			視覚障害者の心理・生理・病理	3後	1									兼1
			聴覚障害者の心理・生理・病理	2後	1		1	1						
			視覚障害者教育論	3後	1									兼1
			聴覚障害者教育論	2後	1			1						
	関連科目	心理統計学	心理統計法Ⅰ	1前	2							兼1		
			心理統計法Ⅱ	1後	2							兼1		
			基礎統計学	1後	2			1						
			推測統計学Ⅰ	2前	2							兼1		
			推測統計学Ⅱ	2後	2							兼1		
			介護等体験	2・3通	1							兼1		
	習・卒業	専門演習	学校経営と学校図書館	2・3・4前		2						兼1		
			学校図書館メディアの構成	2・3・4後		2						兼1		
			学習指導と学校図書館	2・3・4前		2						兼1		
			読書と豊かな人間性	2・3・4後		2						兼1		
情報メディアの活用			2・3・4前		2						兼1			
習・卒業	専門演習	こども教育演習	3通	4		3	7	1	1					
		卒業論文	4通	4		3	6	1	1					

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
18	201	3	222	18	201	3	222	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	「該当なし」					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	「該当なし」					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{222} = \boxed{0.00} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地と運動場用地 1 (300m, 徒歩5分) 校舎敷地と運動場用地 2 (3.5km, 車で15分)			
	校 舎 敷 地	17,206 m ²	0 m ²	0 m ²	17,206 m ²				
	運 動 場 用 地	19,625 m ²	0 m ²	0 m ²	19,625 m ²				
	小 計	25,966 m ²	0 m ²	0 m ²	25,966 m ²				
	そ の 他	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²				
	合 計	36,831 m ²	0 m ²	0 m ²	36,831 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
		30,169 m ² (30,169 m ²)	12,670 m ² (12,670 m ²)	0 m ² (0 m ²)	30,169 m ² (30,169 m ²)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	41 室	6 室	14 室	4 室 (補助職員 2 人)	3 室 (補助職員 2 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	現代人間学部 こども教育学科			16 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用分を 含む図書40,000冊 [35,000冊]	
	現代人間学部	128,000 [33,330] (118,000 [32,100])	310 [60] (310 [60])	1,100 [540] (1,100 [540])	400 (340)	400 (400)	0 (0)		
	計	128,000 [33,330] (118,000 [32,100])	310 [60] (310 [60])	1,100 [540] (1,100 [540])	400 (340)	400 (400)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	3,625 m ²		198		278,111				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体		
	2,004 m ²		トラック 1面 テニスコート 4面 トレーニングルーム 1室						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	「図書購入費」「設備購入費」を最新額に変更 (29) 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費 (運用コスト含む)を含む。
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	300千円	300千円	図書購入費	13,328千円 10,000千円	11,677千円 9,000千円	11,677千円 9,000千円	
		共 同 研 究 費 等	3,200千円	3,200千円	設備購入費	19,000千円 15,223千円	5,000千円 1,500千円	5,000千円 1,500千円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		1,410千円	1,130千円	1,130千円	1,163千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経営補助金, 雑収入, その他							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	京都ノートルダム女子大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
人間文化学部									
英語英文学科	4	80	3年次5	420	学士(文学)	0.78	昭和36年度	京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地	平成29年入学定員変更110→80
人間文化学科	4	50	-	230	学士(人間文化)	0.65	平成12年度	同上	平成29年入学定員変更60→50
生活福祉文化学科	4	-	-	-	学士(生活福祉文化)	-	平成19年度	同上	平成29年より学生募集停止
心理学科	4	-	-	-	学士(心理)	-	平成17年度	同上	平成29年より学生募集停止
現代心理専攻	4	-	-	-				同上	
学校心理専攻	4	-	-	-				同上	
臨床心理専攻	4	-	-	-				同上	
現代人間学部									
福祉生活デザイン学科	4	70	-	280	学士(福祉生活デザイン)	0.52	平成29年度	同上	
心理学科	4	100	-	400	学士(心理学)	0.58	平成29年度	同上	
こども教育学科	4	70	-	280	学士(こども教育)	0.65	平成29年度	同上	
大学の名称	京都ノートルダム女子大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
(修士課程)									
人間文化研究科									
応用英語専攻	2	8	-	16	修士(応用英語)	0.15	平成14年度	京都府京都市左京区下鴨南野々神町1番地	
生活福祉文化専攻	2	6	-	12	修士(生活福祉文化)	0.12	平成16年度	同上	
人間文化専攻	2	3	-	6	修士(人間文化)	0.16	平成17年度	同上	
(博士前期課程)									
心理学研究科									
発達・学校心理学専攻	2	8	-	16	修士(心理)	0.15	平成17年度	同上	

臨床心理学専攻	2	7	-	14	修士 (心理)	0.88	平成17年度	同上
(博士後期課程)								
心理学研究科								
心理学専攻	3	4	-	12	修士 (心理)	0	平成17年度	同上

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<現代人間学部 こども教育学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	工藤 哲夫 (59)	平成29年4月	現代社会とこども※ こども教育基礎演習 こども教育 フィールド研修 教育の方法と技術 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 教職実践演習 (幼・小) 国語 国語科指導法 アクティブラーニングの指導法 学習デザイン論 こども教育演習 卒業論文						
専	教授	萩原 暢子 (63)	平成29年4月	身近な医学※ 病児の発達と 支援※ こども教育 基礎演習 こども教育 フィールド研修 こどもの保健Ⅰ こどもの保健Ⅱ こどもの保健演習 保育表現演習Ⅰ 保育表現演習Ⅱ 保育実習指導Ⅰ-1 保育実習指導Ⅰ-2 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅰ-1 保育実習Ⅰ-2 病弱者の 心理・生理・病理※ こども教育演習 卒業論文						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	教授	田中 裕喜 (46)	平成29年4月	こども教育基礎演習 こども教育 フィールド研修 教育原理 教育と社会 教育課程論 教育実習事前 事後指導 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 教職実践演習 (幼・小) 保育課程論 保育内容 (人間関係) 保育者論 こども教育演習 卒業論文						
専	教授	東道 伸二郎 (68)	平成29年4月	こども教育基礎演習 知的障害者の 心理・生理・病理※ 肢体不自由者の 心理・生理・病理 病弱者の 心理・生理・病理※ 聴覚障害者の 心理・生理・病理※						
専	准教授	神月 紀輔 (52)	平成29年4月	情報科学 こども教育基礎演習 こども教育 フィールド研修 教育実習事前 事後指導 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 算数 情報教育 算数科指導法 こども情報 リテラシー こども教育演習 卒業論文						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	准教授	江川 正一 (61)	平成29年4月	現代社会と 病者・障がい者※ 病児の発達と支援※ こども教育基礎演習 こども教育 フィールド研修						
				特別支援教育 基礎理論	専	准教授	江川 正一 (62)	平成29年4月	特別支援教育 基礎理論※	課程認定申請の理由により、 オパス科目へ変更 平成29年1月 AC教員審査済 (29)
				病弱者教育論 I 病弱者教育論 II 聴覚障害者の 心理・生理・病理 聴覚障害者教育論 障害者教育課程論 LD等教育総論 特別支援教育実習 事前事後指導 特別支援教育実習	兼任	講師	野村 宗嗣 (59)	平成29年10月	特別支援教育 基礎理論※	平成29年10月から 課程認定申請の理由により、 オパス科目へ変更のため、 担当者の追加 (29)
専	准教授	河佐 英俊 (62)	平成29年4月	こども教育基礎演習 こども教育 フィールド研修 教職論 教育経営論 初等教育実習 I a 初等教育実習 II a 初等教育実習 I b 初等教育実習 II b 道徳の指導法 特別活動の指導法 生徒指導・進路指導						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	石井 浩子 (47)	平成29年4月	病児の発達と支援※ こども教育基礎演習 こども教育 フィールド研修 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 保育内容総論 保育内容(健康)						
				専	准教授	石井 浩子 (47)	平成29年4月	幼児理解の理論と方法※	課程認定申請の理由により、オムバス科目へ変更 平成29年1月 AC教員審査済(29)	
				兼任	教授	高井 直美 (58)	平成29年4月	幼児理解の理論と方法※	平成29年10月から教育充実を図るため、担当者の追加(29)	
				兼任	准教授	薦田 未央 (46)	平成29年4月	幼児理解の理論と方法※	平成29年10月から教育充実を図るため、担当者の追加(29)	
				保育・教職実践演習 乳児保育 保育表現演習Ⅰ 保育表現演習Ⅱ 保育原理 保育実習指導Ⅰ-1 保育実習指導Ⅰ-2 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅰ-1 保育実習Ⅰ-2 保育実習Ⅱ こども教育演習 卒業論文						
専	准教授	植田 恵理子 (56)	平成29年4月	病児の発達と支援※ こども教育基礎演習 こども教育 フィールド研修 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb						
				専	准教授	植田 恵理子 (56)	平成29年4月	保育内容(表現)※	課程認定申請の理由により、オムバス科目へ変更 平成29年3月 変更書提出(29)	
				専	准教授	藤本(下村)陽三 (63)	平成29年4月	保育内容(表現)※	課程認定申請の理由により、オムバス科目へ変更 平成29年3月 変更書提出(29)	
								保育・教職実践演習 保育表現演習Ⅰ 保育表現演習Ⅱ 保育実習指導Ⅰ-1 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅰ-1 保育実習Ⅱ ピアノ実技 音楽Ⅰ 音楽Ⅱ 音楽Ⅲ 音楽科指導法 小学校表現活動論 こども教育演習 卒業論文		

設置時の計画					変更状況					備考
専任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	小川 博士 (35)	平成29年4月	身近な自然科学 こどもと自然 こども教育基礎演習 こども教育フィールド 研修 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 生活※ 環境教育 理科指導法 生活科指導法※ 理科 こども教育演習 卒業論文						
専	准教授	古庵 晶子 (50)	平成29年4月	こども教育基礎演習 こども教育 フィールド研修 保育表現演習Ⅰ 保育表現演習Ⅱ 保育実習指導Ⅰ-1 保育実習Ⅰ-1 保育実習Ⅱ ピアノ実技 音楽Ⅰ 音楽Ⅱ 音楽Ⅲ 小学校表現活動論 こども教育演習						
専	准教授	畠山 寛 (45)	平成29年4月	病児の発達と支援※ こども教育基礎演習 こども教育 フィールド研修 こどもの教育心理学 こどもの発達心理学 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 保育・教職実践演習 障害児保育 保育表現演習Ⅰ 保育表現演習Ⅱ 保育心理学演習 保育実習指導Ⅰ-1 保育実習指導Ⅰ-2 保育実習指導Ⅱ 保育実習Ⅰ-1 保育実習Ⅰ-2 保育実習Ⅱ 基礎統計学 こども教育演習 卒業論文						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	准教授	藤本(下村)陽三(63)	平成29年4月	こどもと自然 こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 教職実践演習(幼・小) 教職専門ゼミナール 図工Ⅰ 図工Ⅱ 図工科指導法 小学校表現活動論						
専	准教授	太田 容次(53)	平成29年4月	病児の発達と支援※ こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 知的障害者教育論Ⅰ 知的障害者教育論Ⅱ 肢体不自由者教育論Ⅰ 肢体不自由者教育論Ⅱ 特別支援教育実習事前事後指導 特別支援教育実習 介護等体験 こども教育演習 卒業論文						
専	講師	大西 慎也(44)	平成29年4月	こども教育基礎演習 こども教育フィールド研修 教育評価 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 生活※ 社会科指導法 生活科指導法※ 社会総合的な学習の指導法 初等教材開発論 こども教育演習 卒業論文						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	助教	住本 純 (34)	平成29年4月	体育講義 健康スポーツ演習 こども教育基礎演習 こども教育 フィールド研修 初等教育実習Ⅰa 初等教育実習Ⅱa 初等教育実習Ⅰb 初等教育実習Ⅱb 体育Ⅰ 体育Ⅱ 体育科指導法 小学校表現活動論 こども教育演習 卒業論文						
兼任	教授	伊藤 一美 (49)	平成29年4月	現代社会と高齢者※ 病児の発達と支援※						
兼任	教授	岩崎(馬詰)れい (49)	平成29年4月	子育てとワーク ライフバランス 病児の発達と支援※ 子どもの読書と メディア 学習指導と 学校図書館 読書と豊かな人間性						
兼任	教授	上田 恵津子 (58)	平成30年10月	学習の心理学						
兼任	教授	牛田 好美 (58)	平成30年4月	こどもと子育ての 生活環境学※						
兼任	教授	加藤 佐千子 (59)	平成29年4月	現代社会と高齢者※						
兼任	教授	河瀬 雅紀 (58)	平成29年4月	身近な医学※ 現代社会と病者・ 障がい者※ 病児の発達と支援※						
兼任	教授	朱(佐藤)鳳 (54)	平成29年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 海外研修(語学)Ⅰ						
兼任	教授	須川 いずみ (62)	平成29年4月	海外研修(語学) Ⅱa 海外研修(語学) Ⅱb						
兼任	教授	鷺見 朗子 (54)	平成29年10月	外国文学 アラビア語						
兼任	教授	高井 直美 (58)	平成29年4月	身近な心理学 こどもと自然 現代社会とこども※ 保育相談支援 心理統計法Ⅰ 心理統計法Ⅱ						
兼任	教授	竹原 広実 (53)	平成30年4月	こどもと子育ての 生活環境学※						
兼任	教授	中村 久美 (58)	平成30年4月	こどもと子育ての 生活環境学※						

設置時の計画				変更状況					備考	
専任・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月		担当授業科目名
兼任	教授	廣瀬 直哉 (50)	平成29年10月	暮らしの統計学						
兼任	教授	藤原 智子 (55)	平成29年4月	こどもと子育ての 生活環境学※ 海外研修 (生活と社会)						
兼任	教授	三好 明夫 (58)	平成29年4月	現代社会と病者・ 障がい者※						
兼任	教授	向山 泰代 (54)	平成29年4月	現代社会と 女性・家族※						
兼任	教授	吉田 智子 (55)	平成29年4月	情報科学入門 情報演習Ⅰ 情報演習Ⅱ 情報処理						
				現代社会と福祉Ⅰ 現代社会と福祉Ⅱ	兼任	教授	室田 保夫 (68)	平成29年4月	現代社会と福祉Ⅰ 現代社会と福祉Ⅱ	他学科の専任教員就任により、兼任として補充(29)
兼任	准教授	尾崎(湯川)仁美 (45)	平成30年4月	推測統計学Ⅰ 推測統計学Ⅱ						
兼任	准教授	久野 将健 (51)	平成29年4月	キリスト教音楽入門 キリスト教音楽						
兼任	教授	薦田 未央 (46)	平成29年4月	こどもと自然 病児の発達と支援※ 教育相談の理論と 方法 障害児・者の心理学						
兼任	准教授	酒井 久美子 (54)	平成29年4月	海外研修 (生活と社会) 現代社会と病者・ 障がい者※ 地域福祉論Ⅰ						
兼任	准教授	佐藤 睦子 (55)	平成31年4月	スクールカウンセリング論						
兼任	准教授	東郷 多津 (53)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ 英語リスニング初級 英語リスニング中級 インターンシップ						
兼任	准教授	長沼 光彦 (54)	平成29年4月	日本文学 ホスピタリティ京都						
兼任	准教授	平野 美保 (49)	平成30年4月	キャリア形成 キャリア形成ゼミ						
兼任	准教授	吉田(小野澤)朋子 (45)	平成30年10月	キリスト教美術						
兼任	講師	青木(高柴)加奈子 (38)	平成29年4月	女性とライフ キャリア 現代社会と女性・ 家族※						
兼任	講師	辻 敦子 (42)	平成31年10月	教育史						
兼任	講師	中里 郁子 (52)	平成29年4月	キリスト教入門 聖書と文化						

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・の別の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	講師	矢島 雅子 (38)	平成30年4月	家族援助論 相談援助演習 介護等体験						
兼任	講師	York Weatherford (50)	平成30年4月	読むための英語 アカデミック英語						
兼任	講師	青木 三陽 (41)	平成29年4月	ドイツ語						
兼任	講師	石川 真美 (57)	平成29年4月	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ						
兼任	講師	伊藤 薫 (29)	平成29年4月	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ	兼任	講師	黒田 一平 (29)	平成29年4月	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ	平成29年1月 伊藤薫の就任辞退のため、担当者の変更(29)
兼任	講師	伊藤 泰子 (51)	平成30年4月	情報処理						
兼任	講師	稲垣 顕子 (63)	平成29年4月	日本語講読Ⅰ 日本語講読Ⅱ						
兼任	講師	今井 里佳 (35)	平成31年4月	こどもの食と栄養						
兼任	講師	伊村 大樹 (42)	平成29年4月	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ						
兼任	講師	岩田 真理子 (62)	平成29年4月	ホスピタリティ入門						
兼任	講師	翁 和美 (47)	平成29年10月	社会学概論	兼任	講師	翁 和美 (47)	平成29年4月	社会学概論	平成29年3月 開講期の変更のため、就任予定年月を変更(29)
兼任	講師	王 嵐 (61)	平成29年4月	中国語Ⅰ						
兼任	講師	小都 晶子 (41)	平成29年4月	東アジア近現代史						
兼任	講師	郭 南燕 (54)	平成30年10月	キリスト教と日本文化※						
兼任	講師	梶山(十河)玉香 (50)	平成29年4月	暮らしの法律学						
兼任	講師	片山 裕 (67)	平成29年4月	国際関係論入門 ノートルダム学 海外インターンシップ						
兼任	講師	北村 友美子 (55)	平成30年4月	こども英語教育Ⅰ こども英語教育Ⅱ 小学校英語教育Ⅰ 小学校英語教育Ⅱ						
兼任	講師	金 美仙 (52)	平成29年4月	コリア語Ⅰ コリア語Ⅱ コリア語Ⅲ						
兼任	講師	工藤 春代 (41)	平成31年10月	消費者教育						
兼任	講師	久保 圭 (33)	平成29年4月	文章表現法						

設置時の計画				変更状況					備考	
専任・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月		担当授業科目名
兼任	講師	黒田 一平 (29)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ						
兼任	講師	小島 秀信 (39)	平成29年10月	暮らしの経済学						
兼任	講師	柴 礼敏 (62)	平成29年4月	中国語Ⅰ	兼任	講師	陶 盈 (37)	平成29年4月	中国語Ⅰ	平成29年2月 柴礼敏の授業担当 数減の申出のため、担当者の追 加(29)
兼任	講師	坂本 優一郎 (46)	平成29年10月	ヨーロッパ近現代史	兼任	講師	森本 慶太 (36)	平成29年10月	ヨーロッパ近現代史	平成29年1月 坂本優一郎の就任 辞退のため、担当者の変更 (29)
兼任	講師	笹岡 隆甫 (42)	平成30年4月	ホスピタリティ京都						
					兼任	学長	真田 雅子 (74)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	教育の充実を図るため、担当 者の増員(29)
兼任	講師	須藤 英幸 (50)	平成30年4月	キリスト教思想						
兼任	講師	芹澤 出 (55)	平成30年10月	社会的養護						
兼任	講師	高岸 雅子 (58)	平成29年4月	日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ						
兼任	講師	橘 健一 (52)	平成29年10月	文化人類学						
兼任	講師	田中 貴子 (61)	平成30年4月	日本語特講Ⅰ						
兼任	講師	田中 敏彦 (64)	平成29年10月	フランス語						
兼任	講師	田中 文昭 (47)	平成30年4月	保育内容(環境) 保育内容(言葉)						
兼任	講師	田中 美和子 (55)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ 実用英語基礎 身近な英文法	兼任	講師	薦田 和美 (58)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	平成29年3月 田中美和子の 科目辞退のため、担当者の変 更(29)
兼任	講師	田中 良広 (57)	平成31年10月	視覚障害者の心理・ 生理・病理 視覚障害者教育論						
兼任	講師	玉井 雅人 (47)	平成29年4月	地球と宇宙の科学						
兼任	講師	大喜 直彦 (56)	平成29年4月	日本近現代史 日本の宗教						
兼任	講師	寺西 みどり (63)	平成29年4月	歴史の中の女性 英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ						
兼任	講師	徳岡 博巳 (64)	平成30年10月	社会的養護内容						
兼任	講師	豊田 陽介 (39)	平成29年10月	環境学概論						
兼任	講師	中村 央希 (33)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	兼任	講師	岡崎 央希 (33)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	平成29年3月 氏名の変更(29)

設置時の計画				変更状況					備考	
専任・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月		担当授業科目名
兼任	講師	中村 亮太 (35)	平成30年4月	情報処理						
兼任	講師	西尾 純子 (55)	平成30年4月	学校経営と学校図書館 情報メディアの活用						
兼任	講師	丹羽 登 (57)	平成30年4月	知的障害者の心理・ 生理・病理※						
兼任	講師	沼野 尚美 (60)	平成29年4月	ボランティア概論	兼任	講師	志藤 修史 (53)	平成29年4月	ボランティア概論	平成29年3月 沼野尚美の就任辞退のため、担当者の変更(29)
兼任	講師	野村 照夫 (58)	平成29年4月	健康スポーツ演習						
兼任	講師	野村 晴美 (58)	平成29年4月	健康スポーツ演習 体育実技						
兼任	講師	日比 伊奈穂 (44)	平成30年10月	日本語特講Ⅱ						
兼任	講師	平野 江美 (43)	平成30年4月	食と健康の教育 家庭科指導法 家庭	兼任	講師	村元 由佳利 (30)	平成29年10月	食と健康の教育	平成29年3月 平野江美の科目辞退のため、担当者の変更(29)
兼任	講師	藤田 朋子 (55)	平成29年4月	ジェンダー論	兼任	講師	藤田 朋子 (55)	平成29年10月	ジェンダー論	平成29年3月 開講期の変更のため、就任予定年月を変更(29)
兼任	講師	藤本 幸治 (47)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ						
兼任	講師	米谷 優子 (57)	平成30年10月	学校図書館 メディアの構成						
兼任	講師	松井 吉康 (55)	平成29年10月	生命倫理						
兼任	講師	松本 ドロタ (44)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	兼任	講師	森 ユキエ (67)	平成29年4月	英語総合Ⅰ 英語総合Ⅱ	平成29年2月 松本ドロタの就任辞退のため、担当者の変更(29)
兼任	講師	村井 琢哉 (36)	平成30年4月	児童福祉論						
兼任	講師	村上 裕美 (56)	平成29年4月	英語基礎Ⅰ 英語基礎Ⅱ						
兼任	講師	丸山 果織 (41)	平成30年10月	書写						
兼任	講師	横山(須賀)真紀 (42)	平成29年10月	憲法と人権						
兼任	講師	渡辺 智美 (48)	平成32年4月	国際理解教育						
兼任	講師	Eric Hail (46)	平成30年4月	日常の英会話 旅行の英会話 やさしいビジネス 英会話						
兼任	講師	Jacoba Akazawa (61)	平成30年4月	日常の英会話 旅行の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	Jodie Campbell (47)	平成30年4月	日常の英会話 留学の英会話 おもてなしの英会話 歌って覚える英語表現						
兼任	講師	John Breen (61)	平成30年10月	キリスト教と日本文化※						
兼任	講師	VALVERDE IBANEZ Maria del Pilar (36)	平成29年4月	スペイン語	兼任	講師	安藤 幸治 (42)	平成29年4月	スペイン語	平成29年3月 VALVERDEの就任辞退のため、担当者の変更(29)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
8 名	4 名

- (注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員数

設置時の計画					現在(報告書提出時)の状況					現在(報告書提出時)の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
4	10	1	1	16	4	10	1	1	16	4	10	1	1	16
(4)	(10)	(1)	(1)	(16)						[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
・ 「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: △1)

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢 (歳)	報告書提出時 (上記(A)) の教員のうち、 定年を延長して 採用している教 員数	完成年度時(上 記(B))の教 員うち、定年を 延長して採用す る教員数
65又は70 歳	0 名	0 名

(注) ・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
		「該当なし」				
合計（A）				後任補充状況の集計（B）		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
「該当なし」						

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		「該当なし」				
合計（C）				後任補充状況の集計（D）		
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
「該当なし」						

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（A）+（C）		後任補充状況の集計（B）+（D）				
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）
「該当なし」						

(注)・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」

(注)・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成28年 8月)	「LD等教育総論」と「LD教育総論」が混在して使われているが、科目内容から「LD教育総論」ではなく「LD等教育総論」と統一して使用すること。また、シラバスにLDと重度重複障害を混同していると思われる箇所があるため、適切に改めるとともに、重度重複障害に関する内容を充実すること。	留意事項	設置認可補正申請の資料中に「LD等教育総論」とすべきところを誤って「LD教育総論」と記載していた箇所があった。精査の上「LD等教育総論」に統一した。 シラバスの内容を精査し、混同していると思われかねない箇所を改めたほか、重度重複障害に関する内容を充実した。(29) (別添2 参照)
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年 2月)	「該当なし」		
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年 2月)	「該当なし」		
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年 2月)	「該当なし」		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<現代人間学部 こども教育学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
「該当なし」	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 京都ノートルダム女子大学FD委員会を設置（別添1 参照）</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） ・毎月1回（8月及び12月を除く）年間10回開催 ・委員は各学科から選出された教員と担当課長で構成し、全員出席を原則としている。</p> <p>c 委員会の審議事項等 ・FD活動の企画立案 ・授業評価等、全学的なFD活動の実施計画の策定及び評価 ・全学的なFDに関する研修及び研究 ・FD報告書の作成 ・FDに関する情報の収集と提供 ・FD関係団体との連携に関すること ・その他、FD活動に必要な事項</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 ・教員研修会については、FD研修会（前期2～3回実施）、全学教員FD研修会（後期1回実施）を実施 ・大学コンソーシアム京都主催の「FDフォーラム」に委員として参画及び教職員の参加 ・オープンクラスの実施</p> <p>b 実施方法 ・FD委員会で企画し、年間を通じて全教職員を対象に全学的に実施している。 ・研修会の実施方法 参加対象は専任教職員とし、うち教員には参加を義務づけている。 実施形式は、学内外の講師による講演・講義形式、学内教員によるディスカッション形式での実施である。 ・オープンクラスの実施方法 参加対象は、専任教職員、非常勤教職員、学生 公開可能な授業を一定期間オープンとする「オープンクラス・ウィーク」及び抽出した特定の授業を公開している。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む） ・FD研修会等 複数の機会を提供し教員参加の機会を確保。平成28年度は延べ参加者数90名（うち教員75名（在籍者67名））であった。 ・全学教員FD研修会 平成28年度は学外講師を迎えて実施した。出席者数は43名で専任教員の約3分の2であった。 ・オープンクラス 平成28年度は前期2週間、後期3週間の「オープンクラス・ウィーク」を実施した。授業参観者の「参観者コメントシート」提出数は、前期48、後期32であった。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 ・研修会によって、大学教育の動向や考え方、アクティブラーニング等の授業手法、情報機器や授業支援システムの活用法等が教員間で共有され、授業改善に活かされている。 ・オープンクラスでは、教員間で授業について検討することにより、授業方法の知識や技能を共有し授業改善に反映されるよう問題の共有を図っている。</p>
--

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・全学的にはほぼ全科目実施している。
- ・実施時期は、毎年、前期 7月、後期 12～1月

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・実施結果は、教職員及び学生が閲覧できるようにしている。また、WEB上においても公表している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

現代人間学部こども教育学科の設置の趣旨・目的は、本学の教員養成課程と保育士養成課程を一つの学科にまとめて「こども」をキーワードとして、2015(平成27)年4月からの「子ども・子育て支援新制度」により、認定こども園、幼稚園、保育所にそれぞれ大きな期待が寄せられ、また、2007(平成19)年4月から、「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、すべての学校において、障害のある幼児児童生徒の支援の更なる充実。2013(平成25)年8月には、「障害のある児童生徒の教材の充実について」報告がなされ、障害のある児童生徒に対する社会的要請に応えるため、保育士、幼稚園・小学校教員及び特別支援学校教員の養成を1学科で専門的に行うことをめざし、幼稚園教諭1種免許状と保育士資格の取得をめざす教育課程(幼稚園教員・保育士コース)と、幼稚園教諭1種免許状・小学校教諭1種免許状との取得をめざす教育課程(幼稚園・小学校教員コース)を設けた。さらに心理と生活・福祉から発展的に創設される学科という特色を生かして特別支援学校教諭1種免許状(知的障害者・肢体不自由者・病弱者)の取得をめざす教育課程(小学校・特別支援学校教員コース)を設定している。

こども教育学科の1年次生においては、現時点で、幼稚園教員・保育士コースを希望する学生が多いが、小学校・特別支援学校教員コースに関心を寄せる学生も予想以上に多く、特別支援教員養成を実現したことに大きな意義を見いだすことができる。なお、コースの決定は、1年次前期終了時に行うため、それまでに、コース決定のための授業「こども教育基礎演習」「こども教育フィールド研修」を行っている。以上、設置の趣旨・目的を達成するための第一歩として、初年次教育を順調にスタートさせていると言える。今後、さらなる趣旨・目的達成のために、特別支援教員養成を代表に、教育内容や効果の研究・充実のため、さまざまな取り組みを実行していく。

なお、今年の一期生は、定員70名に対して入学者は46名の結果であり、8月末の設置認可を受けてからの本格広報活動となり学生募集に不利になった面もある。平成30年度募集にあたっては、入試広報(大学ホームページ(スマートフォン対応を含めて)や高等学校への学校訪問、個別説明会等)及び高等学校の模擬授業などを通じて、高校3年生だけでなく1、2年生への情報発信を含めて、こども教育学科の設置の目的や意義、教育課程の特色の周知を図り、志願者数の拡大に努めたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・平成30年5月1日 公表(予定)

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行し、関係機関等に各1冊を配布予定
- ・大学ホームページ(平成30年5月末を予定)

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成34年度に評価機関の評価を受けるべく、学内で検討中
- ※前回は平成27年度に評価機関(財団法人 大学基準協会)の評価を受けた。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期(未公表の場合は予定時期)

(29年7月末)